

肉用牛の生産振興 計画について

—岡山県農林部畜産課—

本県の肉用牛飼養は昭和二十九年の一
万七千頭をピークとして次第に減少し、
昭和四十一年には六万二千四六〇頭と半
減し、年間の子牛生産頭数も三万三千頭
から二万四千頭となつた。しかしこの肉
用牛飼養頭数は県内総家畜単位の四三%
に相当し、その飼養戸数は四万四千戸で
養鶏につぐ高い飼養率を示し、農業粗生
産額にして二〇億五千万円（四十年度中
をあげ、本県畜産の中で重要な地位を占
め、殊に収益性の低い県中北部農山村に
おける農業生産に極めて高い比重を示し
ている。

又、近年増大の一途を続けてきた食肉
需要については今後においても国民所得
の増加とともに確実な伸びが予想され、

一、岡山県肉用牛生産振興方針

肉用牛の振興については、昭和四十一
年五月三十日付知事あての畜産局長通達
「肉用牛振興施策の実施について」に基
付き、今後国、県、市町村を通じたいわ
ゆる一貫体制のもとに進められることと
なった。このため県においては、昨年八
月肉用牛振興要綱を定め、肉用牛飼養適
地の市町村を肉用牛振興地域（和牛改良
地域、和牛増殖地域、肥育地域）として
指定し、県の肉用牛生産振興方針に基付
き市町村肉用牛生産振興計画の樹立並び
に認定の事務を進めてきたが、このほど
これがまとまったのでその概要を記す。

1. 昭和46年における肉用牛飼養の目標

区分 年度	飼養頭數	飼養戸數	1戸当たり飼養頭數	子牛生産頭數	肉牛生産頭數
昭和41年度	62,460頭	44,000戸	1.4頭	24,100頭	12,585頭
" 46 "	85,000	34,000	2.5	33,300	29,200
指 数	136	77	178	138	232

2 肉用牛改良目標

内用牛改良目標									
区分性	体型(完熟したもの)			産肉能力				發育能力	
	体重	胸围/体高	体重	肥育開始月令	肥育期間	1日増体重	枝肉歩留	生時体重	生後6ヶ月時体重
現在	雌	125～127	144～146%	370～430kg	30～36ヶ月	100日 180	1.0 0.8	55～60%	25～30kg 130～170kg
	雄	137～140	153～158	700～750	5～6	350	0.8	30～37	140～180
目標	雌	125	152	480				30	180
	雄	140	160	850	6ヶ月	300	0.9	63 37	200

九月号目次	
和牛振興にことよせて	出口 孝吉
肉用牛の生産振興計画について	県畜産課
外からみた岡山の和牛	特集
ニユース	
養鶏農協のペイジ	
食肉市場からみた肉用牛の動き	
経済連の和牛対策	瀬島 源喜
経 済 連	30
和牛の産肉能力について	4
乳牛の中毒症	
飼 試 ◇	
◇鶏 試 ◇	
和牛放談会	
これからの中の岡山の和牛	
企業肥育のめばえ	
肥育座談会	
生産座談会	
意欲の出てきた	
和牛生産	

和牛振興にことよせて



A decorative horizontal border consisting of a repeating pattern of stylized leaves and small diamond shapes.

岡山県畜産課長　出　口　孝　吉

和牛の頭数が、この十年間に激減しているがいる。全国的にも著しく減少しているが、岡山県においても、昭和三十年に一一万五千頭であったが、昭和四十一年には六万二千頭と最盛期のほぼ半数になつてゐる。このような減少は、耕耘機の普及によつて、飼養目的が役利用から肉用に変化したための当然の帰結であるとも考えられる。役利用が減った結果、使役育成地帯が次第に消えて、現在では飼養過程が子牛生産と肥育の一段階に移つてゐる。この肉用の転換に加えて、農村人口の流出や長期間にわたる子牛価格の低迷等によって、繁殖地帯においても飼養戸数や頭数の減少が見られる点に問題がある。和牛はこのように減少しているが、岡山県における総家畜単位の約四三%を占めており、しかも収益性の低い中北部地域の農業生産にとっては、その占める比重も高いので、和牛振興の問題は、資源確保の上からも農山村振興のためにも、真剣に考えなければならない問題である。

去る四月に出された岡山県肉用牛生産振興方針においては、昭和四十六年における目標として、飼養頭数八万五千頭、一戸当たり飼養規模二・五頭、子牛生産頭数三万三千三百頭、肉牛生産頭数二万九千二百頭と示されている。この目標は簡単に達成できるものでなく、和牛振興は当面する問題が多い。例えば生産改良

では肉質は優れ、一日当たり増大量も相当に改良されているが、育成性や早熟性において外国の肉畜用種に比し劣っており、また飼養規模はその九五%が一、二頭飼育で、極めて零細であり、子牛生産のコストダウンを妨げている。飼料の自給や飼料給与にも問題があり、特に冬期の飼料確保の面に立ち遅れが認められる。また切角県内で生産された子牛が、県外に多く出荷され特に肥育素牛は他県に流出するものが多く、県内の肥育農家は素牛の入手難をかこつて現状である。

今後の岡山県の和牛のあり方としては先ず岡山県は和牛の原種の供給地としての性格を打ち出すことが第一であろう。昨年の全国共進会によって本県産牛の優秀性は立証されたが、今後はさらに計画交配と選抜によって産肉性の改良をすめなければならない。

経営規模の拡大については、従来この面での試験研究なり展示普及の立ち遅れがあつたが、昨年度から繁殖育成センターが設置されたので、新しい多頭飼育繁殖経営のモデルとして普及推進されるよう期待している。多頭飼育の場合問題になる所得税のことも、五ヵ年間の肉用牛販売所得についての免税措置が取られたので、多頭化推進の大きな支柱となろう。牧野の改良も最近は和牛関係で造成さ

れるものが多くなつた。所有権の権利調整の問題はあるが、繁殖牛は草で飼う考え方方に徹し、草地の開発利用なり飼料作物の計画的栽培利用を積極的に行ない自給化を図りたい。

和牛の飼養技術については、従来の一頭飼育の慣行から早く脱却し、科学的合理的な基礎にたつた經營技術を取りあげることが必要である。従来の飼養慣行は長い間に集積されたものであり、それなりに意義もあるであらうが、種畜の改良がすゝみ、環境の整備が行なわれば、それに応じた飼養技術を積極的に取り入れるべきである。特に和牛の早期受胎、早期受胎により繁殖回転率を高めることは、増殖面からも、農家所得の向上のうえからもぜひ推進したいものである。

本年度の県の施策としては、種畜の改良、草地の改良利用、自給飼料増産等を行なうほか、畜産公社の貸付事業と相まって家畜導入を積極的に取りくむと共に、経営規模の拡大、技術の改善を推進したいと考えている。関係団体におかれても、流通対策のみでなく、生産増強、經營技術の改良が農家所得の増大につながるものであるから、生産対策を意欲的にすすめらるよう刃に希望する次第である。

二、市町村肉用牛生産振興計画

(5) 中心地としての安定をはかる。
 (4) 飼養技術の向上改善と指導体制の強化につとめる。
 (3) 草地の造成、牧野の改良などいわゆる飼養環境の整備並びに子牛価格安定制度を確立して飼養規模の拡大と経営の合理化をさらに推進する。
 (2) 肉牛資源の維持増大のため、繁殖牛の導入確保と肉牛肥育の普及拡大を図る。
 (1) 和牛の産肉能力の向上を一化をさらに推進し、経済能力の向上を図る。

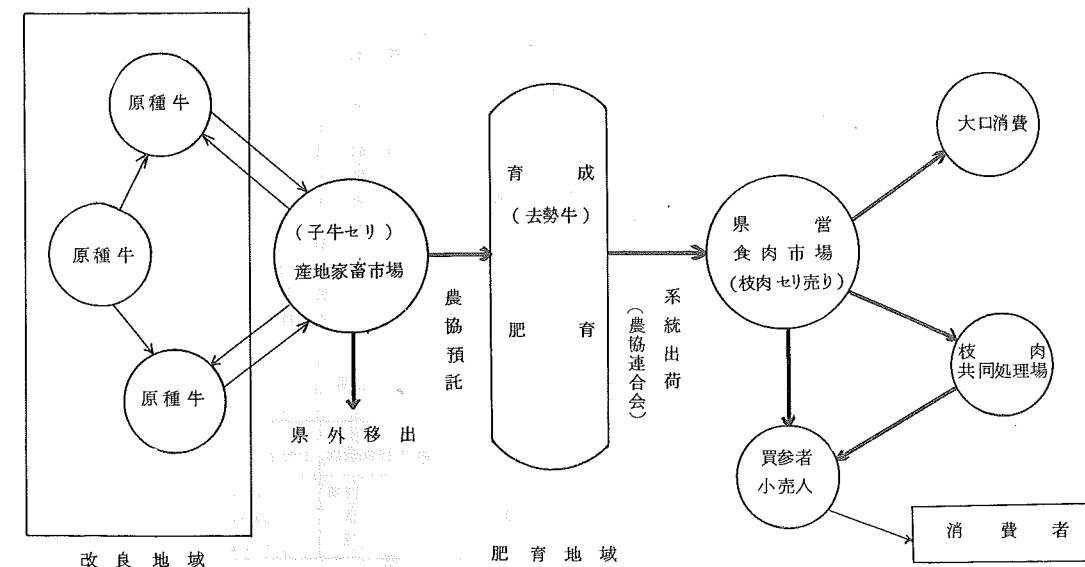
その方針は次のとおりとする。
 (8) 草地を中心とした肉用牛経営の近代化を強力に推進する。

3. 飼料生産利用計画

区分	昭	
	飼料生産	
	畑	水田裏作
面積(ha)	8,183.4	10,505.9
10アール当たり収量(kg)	5,100	4,200
生産量(トン)	417,353	441,247
養分生産量(TDN)	57,177	49,420
肉用牛仕向率(%)	51.5	55.6
肉用牛仕向量(トン)	29,485	27,504
(注) ()内は給与量	(22,113)	(20,627)

面積および生産量	成牛1頭当り給与量	昭和46年				備考			
		飼料生産面積および生産量							
		畑	水田裏作	牧草地	野草地				
5,067	7,647	31,403.3	—	12,343	19,132	6,532	30,033	68,030	—
2,800	1,000	—	—	5,500	5,000	4,000	1,000	—	—
141,376	76,470	1,076,946	—	678,865	956,600	260,880	300,330	2,196,675	—
17,025	7,876	131,498	—	92,003	107,137	31,303	31,413	261,856	—
20	100	51.9	—	57.1	58.7	20	100	58.4	—
3,407	7,876	68,272	—	52,609	62,724	6,262	31,413	153,000	—
(2,384)	(5,512)	(50,636)	1,073	(39,440)	(47,042)	(4,384)	(21,624)	(112,490)	1,707

図1 生産から消費に至る流通体系図(目標)



4. 肉用牛振興地域指定市町村

地域区分	指定市町村名	市町村数
和牛改良地域	成羽町, 北房町, 有漢町, 新見市, 哲西町, 哲多町, 新郷町, 大佐町, 勝山町, 新庄村, 美甘村, 湯原町, 中和村, 八束村, 川上村, 久世町, 落合町, 上齋原村, 富村, 奥津町, 鏡野町, 加茂町, 阿波村, 旭町, 久米南町, 中央町, 建部町, 勝田町, 作東町, 東粟倉村, 西粟倉村, 大原町, 加茂川町	33
和牛改良, 肥育地域	高梁市, 備中町, 川上町, 賀陽町, 津山市, 久米町, 橋原町, 勝北町, 奈義町, 勝央町, 美作町	11
和牛増殖地域	吉井町, 英田町, 美星町	3
和牛増殖, 肥育地域	矢掛町, 芳井町	2
肥育地域	上道町, 邑久町, 牛窓町, 長船町, 和気町, 濑戸町, 熊山町, 赤坂町, 山陽町, 佐伯町, 倉敷市, 総社市, 高松町, 足守町, 昭和町, 真備町, 清音村, 笠岡市, 井原市	19

地域の指定をうけた市町村がそれぞれ自主的に作成し、現在、県において検討されている市町村肉用牛生産振興計画の概要は表四、表五のとおりである。

5. 市町村肉用牛生産振興計画の概要

区分	振興地域 市町村数	飼養頭数		繁殖牛頭数		子牛生産頭数		肉牛出	
		現 在	目 標	現 在	目 標	現 在	目 標	現 在	目 標
岡山	6	2,973	4,910	928	1,610	470	1,000	1,526	
和氣	7	2,821	3,596	552	724	308	579	2,193	
倉敷	7	1,740	2,966	306	286	114	77	2,140	
笠岡	5	3,740	5,606	1,719	2,301	1,204	1,629	1,262	
高梁	7	7,560	10,291	4,751	6,291	3,374	5,137	2,022	
新見	5	7,810	11,615	5,497	7,057	3,564	5,646	254	
勝山	9	5,805	10,325	4,383	7,430	3,383	6,171	368	
津山	12	15,212	25,322	10,024	15,582	7,180	11,934	1,178	
美作	10	8,023	14,567	5,015	8,356	3,396	6,605	1,567	
計	68	55,684	89,198	33,175	49,637	22,993	38,778	12,510	

(注) 現在は昭和41年、目標は昭和46年としたものである。

荷計画	草地改良計画		野草地利用計画		飼養農家戸数		1戸当たり平均飼養頭数	
	目標	改良済	計画	現在	目標	現在	目標	現在
3,867	143	ha	189.5	244.6	237.2	2,518	2,059	1.2
2,624	114.5		126	778	924	2,121	1,525	1.3
4,411	35		37	230	277	1,202	1,012	1.4
2,763	97.7		225	49.8	155.7	3,054	2,695	1.2
3,560	570.6		343.1	3,615.5	3,980	5,946	4,942	1.3
1,193	228		460	7651	11,216	4,954	3,760	1.6
721	1,322.6		1,006.5	3,267	3,359	4,085	3,482	1.4
2,755	508.1		743.2	7,023.4	7,502	9,223	7,910	1.6
3,462	312.9		3,868	1,536.8	2,690	6,247	5,567	1.3
25,356	3,332.4		3,517.1	24,396.1	30,340.9	39,350	32,952	2.7

伝統と体験を

生かしていただきたい

全国和牛協会会長 小枝一雄

昨年岡山に於て全国和牛産肉能力共進会が開かれ、各地から優秀な出品があり全く壯観の言葉に尽きる次第であった。その中で、岡山の和牛が第一位をかち得た事は私共の忘れ得ぬところであり、永く記念すると共に将来岡山和牛を名実共に発展させ度い念願である。

併し之を發展振興する為には、畜産家の諸君は元より指導者即ち技術者や団体首脳部の多大なる努力が必要であるが、この共進会開催の目的は、現在の和牛の産肉能力の実態を明確にすることになりますことは改めて申述べる必要はありませんが、從来の農業經營の為の和牛から肉利用の為の和牛という經濟的性格の転換をなさねばならぬ状に、果してこの目的達成に適當なる産肉能力をもつていかるかどうか、これが大多数の人々、特に和牛に多年關係している方々にとっては疑問としていたところですが、この長期に亘る綿密な調査、研究、審査の結果によって和牛の産肉能力は右の目的達成に十分応え得る立派なものであり、外國用種に優れる能力をもち、尚風土、飼育環境に慣れているという得点がある

ないところでございます。ここに改めて関係各方面に厚くお礼を申述べる次第でござります。

この共進会開催の目的は、現在の和牛の産肉能力の実態を明確にすることになりますことは改めて申述べる必要はありませんが、從来の農業經營の為の和牛から肉利用の為の和牛という經濟的性格の転換をなさねばならぬ状に、果してこの目的達成に適當なる産肉能力をもつていかるかどうか、これが大多数の人々、特に和牛に多年關係している方々にとっては疑問としていたところですが、この长期に亘る綿密な調査、研究、審査の結果によって和牛の産肉能力は右の目的達成に十分応え得る立派なものであり、外國用種に優れる能力をもち、尚風土、飼育環境に慣れているという得点がある

その中で、岡山の和牛が第一位をかち得た事は私共の忘れ得ぬところであり、永く記念すると共に将来岡山和牛を名実共に発展させ度い念願である。

併し之を發展振興する為には、畜産家の諸君は元より指導者即ち技術者や団体首脳部の多大なる努力が必要であるが、この共進会開催の目的は、現在の和牛の産肉能力の実態を明確にすることになりますことは改めて申述べる必要はありませんが、從来の農業經營の為の和牛から肉利用の為の和牛という經濟的性格の転換をなさねばならぬ状に、果してこの目的達成に適當なる産肉能力をもつていかるかどうか、これが大多数の人々、特に和牛に多年關係している方々にとっては疑問としていたところですが、この长期に亘る綿密な調査、研究、審査の結果によって和牛の産肉能力は右の目的達成に十分応え得る立派なものであり、外國用種に優れる能力をもち、尚風土、

たので、これをご転載下さるならば私の本懐とする處であります。
(一頁に別載)

我が国の和牛は、近年の食肉需要の著しい増加と農業の機械化の發達によつて、その飼養目的も今や肉利用の一点に絞られており、これに対応するために良質肉を生産し、しかも草資源を最も有効に利用しうる和牛の改良増殖に大きな期待が寄せられている。

こうした期待のもとに、昭和三十七年十一月に肉用牛の改良増殖目標が定められた。その内容をふり返ってみると、体型および資質については、産肉能力の向上を図るために、肉質ならびに体各部の均称よく、体積にとみ、中軸および後軀の充実したものとするとともに、飼料とくに粗飼料の利用性にとみ、成熟率高く、また産子の齊一性、連産性など繁殖能力

更に県政上にも今後一段の配慮をお願いしなければならない。昨年の春、共進会の数ヶ月前出品牛の予備審査の当時は、他県に比し岡山牛が余り優秀とは云えなかつたが、それから共進会までの数ヶ月間に見違える程岡山の出品牛は立派になった。人間の努力は實に驚く外はない、と大会々長の羽部博士が絶賛して居られたのを私は聞いた。ほんとうに出品者や指導された各位に深甚な敬意を表する。次第である。あれから早くも一年を経て、県下の関係者の皆さんは更に決意を新しくし、和牛岡山の躍進に一段の努力をされている事を偲び益々その發展をお祈りするものである。

我が国の食糧の肉資源は前途憂慮に堪えない。この問題解決の大半を担う最大の課題は、和牛の振興发展である。私は施政の面に於ても、外国人の作る食肉は日本人の手で之を作り、外國へ支払う牛肉代金を日本の農家に所得させるべきだと思う。私は年々減少する和牛の状況を憂え、之を転じて増産すべきであると考え、全国各方面の先輩全志の諸君と共に、政部実施の運びとなる予定である。

何れにしても、氣候風土に於ても適し

府並びに国会方面に之れに伴う予算の大巾増額、和牛の価格支持、免税、を提唱し主張し続けて来たが、政府予算に於ては今から四年前に比し約四倍、又極めて困難であった所得税は本年三月末を以て閣議決定を見、昭和四十二年度より五ヶ年間、乳牛も乳用牛を廃して肉用として出荷し正規の処置をするものに対しては牛の価格支持の方法として価格安定の為に肉用牛として免税するに決した。また犠牲金を日本農業省に於て目下検討中であるが、本年中には一部実施の運びとなる予定である。

何れにしても、氣候風土に於ても適して居るばかりでなく、永年に亘る伝統と飼育監理の体験を生かし、岡山県の和牛の発達を図つて頂き度い。その為には個人の一、二頭飼育から更に多頭飼育、協業飼育に發展せしめると共に、草資源、床盤整備等も積極的にお願い致し度く念願に堪えない。

全国和牛産肉能力共進会の効果

全国和牛登録協会会長

羽部義孝

これから牛

農林省畜産局

家畜改良課長

黒岩裕

農林省畜産局

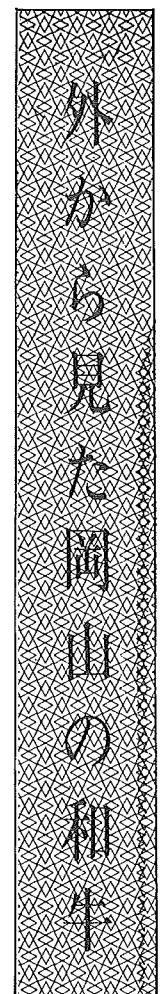
家畜改良課長

第一回全国和牛産肉能力共進会が、

昨年十月岡山会場で最終審飾ってか

らすでに一年がすぎた。この成績で

岡山の和牛の名声はますます高揚してきましたが、これでよしとするのでなく、さらに改良増殖に努めなければ



岡山

の

和牛

農林省農林水産

技術会議調査資料課長

大川忠男

更に県政上にも今後一段の配慮をお願いしなければならない。昨年の春、共進会の数ヶ月前出品牛の予備審査の当時は、他県に比し岡山牛が余り優秀とは云えなかつたが、それから共進会までの数ヶ月間に見違える程岡山の出品牛は立派になつた。人間の努力は實に驚く外はない、と大会々長の羽部博士が絶賛して居られたのを私は聞いた。ほんとうに出品者や指導された各位に深甚な敬意を表する。次第である。あれから早くも一年を経て、県下の関係者の皆さんは更に決意を新しくし、和牛岡山の躍進に一段の努力をされている事を偲び益々その發展をお祈りするものである。

我が国の食糧の肉資源は前途憂慮に堪えない。この問題解決の大半を担う最大の課題は、和牛の振興发展である。私は施政の面に於ても、外国人の作る食肉は日本人の手で之を作り、外國へ支払う牛肉代金を日本の農家に所得させるべきだと思う。私は年々減少する和牛の状況を憂え、之を転じて増産すべきであると考え、全国各方面の先輩全志の諸君と共に、政部実施の運びとなる予定である。

何れにしても、氣候風土に於ても適して居るばかりでなく、永年に亘る伝統と飼育監理の体験を生かし、岡山県の和牛の発達を図つて頂き度い。その為には個人の一、二頭飼育から更に多頭飼育、協業飼育に發展せしめると共に、草資源、床盤整備等も積極的にお願い致し度く念願に堪えない。

第一回全国和牛産肉能力共進会が、昨年十月岡山会場で最終審飾ってからすでに一年がすぎた。この成績で岡山の和牛の名声はますます高揚してきましたが、これでよしとするのではなく、さらに改良増殖に努めなければならぬ。

そこで第一回全共に参加された関係の方々に外からみた「岡山の和牛」に対するご意見、ご指意、ご指導をまとめて執筆していただき、寄稿ねがつたものをここに掲載した。

去年秋、岡山市で全国和牛登録協会主催のもとに全国和牛産肉能力共進会が開催されたが、それを機会に数年振りに岡

山市に出向いて、名牛の多くを拝見する

ことができた。

その時、会場で真庭郡落合町の長尾さんにお会いすることができたが、余程牛好きでないと岡山まで来て牛を見るといふことは出来ないことである。長尾さんは承知している人は勿論であるが、知らない人でも長尾さんが神戸で開催された中國六県の連合共進会の成牛雌の部で優等賞首席をとられ農林大臣賞を授賞しひいては天皇賞選賞候補者になられた人であるといえ、「ああ成程」と思われる人も多いかと思う。この人の住む落合町といえば昔から真庭牛の産地で、名牛輩出の記録も輝かしい歴史をもつ所である。

名牛産地は產牛地としての自然的社會的条件を備えていて、このことから「牛は風土の産物である」とさえいわれる所似でもあったのである。これに人の素朴な愛情があつて、渾然一体となり、岡山の和牛として「温和で、均称体積に秀れ、特に資質に優れた」和牛が生産されたことは当然と言わざるを得ないのである。

そうした和牛生産の諸条件のなかに、近年には経済的諸条件がまえにもまして一段と強く介在するようになり、これが和牛生産に從事する人々の考えに強く影響するようになつた。

地域社会的伝統や、和牛に対する愛情だけでも牛が生産されなくなつて来たのである。このことは何も岡山県だけの現象ではなく、むしろ全国的な現象である。ただ岡山県には和牛生産地として名声を急ではなかろうか。

第二に規模拡大の問題である。地についた和牛生産經營を期待するには、やはり農業經營の中における和牛による収入育成部門の分担と、また結果的に自家保留で生きる体制を一層強化されること緊急ではなかろうか。

子牛価格の高値時に農家が生産子牛を保留し規模拡大することはなかなか困難であることから國の制度等を活用し、県、畜産公社、市町村、農協等の力によって和牛として「溫和で、均称体積に秀れ、特に資質に優れた」和牛が生産されたことの記録も輝かしい歴史をもつ所である。中国六県の連合共進会の成牛雌の部で優等賞首席をとられ農林大臣賞を授賞しひいては天皇賞選賞候補者になられた人であるといえ、「ああ成程」と思われる人も多いかと思う。この人の住む落合町といえれば昔から真庭牛の産地で、名牛輩出の記録も輝かしい歴史をもつ所である。

最後に、わが国内用牛の振興には肉用

搏したところのどこにも共通する牛を愛する素朴な人間的、これは花鳥風月を愛したわれら祖先の、それにも似たものがこうした激動の世の中にあることは私には大きい救いであり、歓びである。

しかし、經濟の激しい發展は人間的なものさえも奪い去つて行き、農村の若い人は勿論、最近では婦人ですら都會にして指摘し、その対策を講じても溜々として流れる水のごとく「どうにもしようのない風土的条件」がわが國の基盤をなしているとすれば、この先一体どうなるのであらうか。

こうした經濟の流れから見れば和牛生産は微々たる農業生産であり、減少してゆくのもこれまで止むを得ないことかも知れない。こうした諦観には余りにも救いがないのではないか。「どうにもしようのないわが國の風土的条件」のなかに「風土的産物」としての和牛生産の存在は一つの心温まる思いがする。

こうした和牛の生産にたいする心構えは今後のわが國農業の發展と無縁のものではない。こうした心構えさえもなくなれば、わが國の農業は精神的荒廃の極に達し、農業は農業でなくなつてしまふのではなかろうか。

こうした意味から和牛の生産頭数は減つても、和牛を愛し、風土的所産として

維持していく人が多く存在するかぎり、ものであつて、こんなことは農業の分野

和牛はわが國の農業のなかから姿を消すことはあるまい。特に岡山県の頭数は減少しても、阿哲、真庭等の和牛生産地が少しある。あるかぎり、和牛はなくなることはあるまい。このことは非常に大切なことで、また新しい和牛生産につながるものであり、今後の發展が期待される所似である。

しかし、經濟の激しい發展は人間的なものさえも奪い去つて行き、農村の若い人は勿論、最近では婦人ですら都會にして指摘し、その対策を講じても溜々として流れる水のごとく「どうにもしようのない風土的条件」がわが國の基盤をなしているとすれば、この先一体どうなるのであらうか。

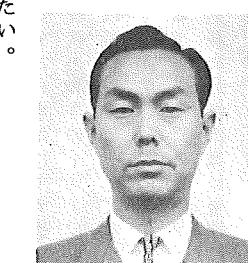
こうした經濟の流れから見れば和牛生産は微々たる農業生産であり、減少してゆくのもこれまで止むを得ないことかも知れない。こうした諦観には余りにも救いがないのではないか。「どうにもしようのないわが國の風土的条件」のなかに「風土的産物」としての和牛生産の存在は一つの心温まる思いがする。

こうした和牛の生産にたいする心構えは今後のわが國農業の發展と無縁のものではない。こうした心構えさえもなくなれば、わが國の農業は精神的荒廃の極に達し、農業は農業でなくなつてしまふのではなかろうか。

こうした意味から和牛の生産頭数は減つても、和牛を愛し、風土的所産として

一一つの期待

農林省畜産局
家畜改良課肉畜班長
小堀政吉



和牛が役用から肉用に大きく転換を要を中心に考えたい。

和牛が役用から肉用に大きく転換を要され、また頭数の減少に対処すること数年来の和牛界の努力は漸く明るさを取りもどした。本年二月一日現在のわが国肉用牛頭数は昨年の一・六%（岡山県は一・二%）の減少に喰い止め得たことは驚くべきことで、現在の種付状況等から見て来年は反転増加することは先ず確実と考えられる。しかしこれからが問題である。それは未だ当分農家戸数は減少するであろうし、地についた肉用牛飼養農家の着実な規模拡大が望まれるからである。そこで、この期待を担う繁殖育成部門

第一は優良種牛の保留である。岡山県は全国に種牛を供給している主要県として、現在の基盤と技術は貴重なもので、

肉用牛頭数は昨年の一・六%（岡山県は一・二%）の減少に喰い止め得たことは驚くべきことで、現在の種付状況等から見て来年は反転増加することは先ず確実と考えられる。しかしこれからが問題である。それは未だ当分農家戸数は減少するであろうし、地についた肉用牛飼養農家の着実な規模拡大が望まれるからである。

そこで改良のスピードを擧げるには、農家集団による優良種牛の確保が必要である。これは申すまでもなく登録制度、

畜産能力検定事業への参加は勿論、その結果に基づき計画的に優良種牛の保留をしなければならない。しかし現在のよう

所得の高い和牛経営をめざしてほしい

京都大学教授
上坂章次

岡山の和牛農家の声の反影が必要である。全國和牛協会のこれまでの活動の成果を認め、今後一層の協力体制を望んで止まない。

岡山の和牛そのものについても、現在、経営をみた。中山氏は、本年、毎日新聞不満な点、改良すべき点はある。しかし、社の農業コンクールで地区代表として体それを指摘すれば、おそらくそれは日本の和牛全体にいいうるようなことになるであろう。も早や一つの県だけについて牛の体型、資質の改良を云々するような時代でもなく、また一つの県だけでその欠点を改めようとしても、それは困難な時代である。

ここでは、牛そのものについてではなく、和牛を飼う農家経営についてふれてみたい。

牛は立派だが經營的にはよい事例ではない」ということがときどきいわれる。これは一部岡山県にもあってはまることかと思われる。これから経営では、所得がなんといつても大事である。いまどき農業所得全体として二〇万円や三〇万円では普通の農家は困るのである。和牛経営部門だけではなくとも三〇万円以上は望みたいのである。和牛の繁殖經營で、稻作と合せて農業所得一三〇万円を越す経営が、どれだけ岡山県にあらうか。

岡山の和牛界に対してはちょっとした悪評があった、それは登録点数が甘すぎることで、七七点が多すぎることで、おそれくこれは事実無根のデマであろう。

このデマを吹きとばすかのごとく、昨秋の第一回和牛産肉能力共進会の成績は良かつた。種牛の部でも、肉牛の部でも、

は他所より約一〇、〇〇〇円高いといいうことである。おそれくこれは好況を呈した。この好成績には全く皆、

まさに牛は日本一、世界一である。そ

の反響か、昨年十二月の子牛の市場価格は他所より約一〇、〇〇〇円高いといいうことである。おそれくこれは好況を呈した。この好成績には全く皆、

岡山県の和牛

広島大学教授
小野茂樹



岡山県の和牛は最盛期には一二万頭近くいたと思うが、現在は半数に近い減少である。それは全国的な推移を岡山県で再現しているにすぎないのであるが、しかし岡山県を含めて中国一帯の產牛県が全国一律な減少傾向に、同じように追従していきこちらに問題がある。

それはつまり産牛地とか産牛県とかいわれていても、他の地帶と同様に、有畜農業的な一頭規模飼育が大半だったわけで、畜力利用の後退とともに、和牛を飼う農家の数が一様に減少した。ところが和牛に対する需要は大きいので、昭和五〇年を目標に一〇万頭にふやすといののが、岡山県の和牛振興計画である。

一〇万頭の増殖計画は、考えようによつては、きわめて簡単である。現在の五万戸の和牛飼養農家が一戸で二頭の和牛を飼えば、一〇万頭になる。しかも子牛の価格が近年高水準で、子牛生産所得は一頭当たりにみればかなり高い。農林省の昭和四一年の和牛生産費調査（速報）によると、全国平均一頭当たり七万八千円の子牛価格で、二万四千円の所得が残る計算となる。自給飼料の所得を加えると一頭当たり四五万円の所得である。

しかし一頭の飼育だと自給飼料は副産物・残滓的な飼料でほぼ間に合うとしても、二頭だと、ほかの作物の生産を犠牲にして、飼料を生産しなくてはならない。しかも現在兼業農家が急速にふえている現状のなかでは、一頭規模農家はさら

国四カ所の一つの地区に選ばれているが、全国のモデルケースとして非常に重大な事業だけに、岡山県の大きな協力を必要とし、私もこの辺では岡山県でないと成功はむつかしいと考えている。

林野と和牛との結びつき、これの成否こそ今後の和牛の伸びを左右するものと言っても過言ではない。私も長らく山野草と和牛との関係をいろんな方向から研究して来た。まだ理由こそはっきりとつかんでいないが、和牛にはいかに野草が大事であるかを、ますます痛感している一人である。日本の牛はやはり日本の草でゆくべきではなかろうか。「山への放牧以外には和牛の伸びる道はない」と私は声を大きくして言いたい。しかし、この方面の研究はほんの緒についたばかりで、今、各試験場で花火のように手がつけられているものの、山での子牛育成、放牧を加味した若令去勢牛肥育、放牧病の予防と治療、放牧と繁殖、牧養力と合理的放牧法など、まだまだ未解決の問題が山積している今日である。これらの技術が一日も早く確立され、農家が安心し

共進会の成果を 活かせ



岡山大学教授
和田 宏

昨年秋に行われた第一回全国和牛産肉能力共進会は、審査の方法において従来の外貌審査に加えて体重測定値を審査の基準として重視した。これは肉牛としては当然なことではあるが、わが国の肉牛改良史上における劃期的な意義ある共進

るである。
（二）肉牛の部で増体記録区の入賞牛四頭のうち、一、二、四席は岡山の牛であった。この部は殆んど岡山の牛が占めたことになり、岡山牛がいかんなく、その本領を發揮したところである。

ずさわる人が多数出て来て、企業的肉牛生産業が盛んになることを望むものである。

国四カ所の一つの地区に選ばれているが、全国のモデルケースとして非常に重大な事業だけに、岡山県の大きな協力を必要とし、私もこの辺では岡山県でないと成功はむつかしいと考えている。

こそ今後の和牛の伸びを左右するものと言つても過言ではない。私も長らく山野草と和牛との関係をいろんな方向から研究して来た。まだ理由こそはつきりとつ

て山を十二分に活用し、これから立派な和牛を多く飼育できる形とならねばならない。

岡山県ことに県北部はこのような条件に恵まれたところが多く、登録頭数も中国第一で、良牛も最も多い。和牛飼育の技術面でも経営面でも、中国地方のモデル県となつてもらいたいものである。否なりうる素質を十分もつてゐる県であると確信している。

会であった。この共進会で岡山県の和牛の最優秀賞は他県を圧倒して優秀な成績をおさめたので本県和牛は名実共に日本の和牛の最右翼に位することが立証されたわけである。関係者各位の長年の努力の賜であつて、深く敬意を表するのみで、牛そのものに対し苦言を呈したり、注文をつけたりすることは正直に云つて何一つ無いのである。しかし、切角の機会であるので、共進会の成果を活かすために、また、今

遺伝質によつてきまる牛の個体の大きさの上限、下限の範囲は非常に広い。むしろ飼養管理の影響が大きい。

肉量の判定には外貌審査よりも牛衡器による方が客観的で正しい。岡山牛の優秀さが牛衡器により客観的に証明されたわけである。これは牛の遺伝質と人為的努力の和であつて岡山の牛の遺伝質と飼養管理技術の優れていますを示すものであるが、今後とも、これらの点を一層

減少を続けるだろう。一頭で五万円の所
得がえられるにしても、それが一ヶ年あ
るいはそれ以上かかるての収益であれば
兼業収入に比べて魅力に乏しいからであ
る。

厩肥の必要性から、今後も一頭農家の
存続するものもあるだろうが、昭和五〇
年という目標時点だと、一農家平均三・七
四頭規模を前提としないと、一〇万頭の
目標は難かしくなるのではないか。

繁殖用雌牛が三・七四頭飼えて、しかも
水稻や他の畑作との競合性の余りないか
たちで、粗飼料生産が充足できる経営や
地帯となると、矢張り山村地帯に限定さ
れるだろう。またそういう地帯では兼業
機会に乏しく、水稻と結んで和牛生産所
得への期待も大きい。山村の放牧・採草
地拡大の見込地域に、子牛生産施策を集
中的に行うべきである。

肥育については、遠い将来は別として、
今後も濃厚飼料依存方式が定着するから、
飼養規模の拡大にとって立地条件の制約
は、子牛生産ほどきびしくはない。輸送
費の条件に恵まれた立地でさえあればよ
い訳だが、和牛は素牛個体ごとの肥育性
のバラツキが大きいことと、厩肥の処理
問題もからんで、一経営二〇頭（常時）
ぐらいを目標に振興計画を行つてい
る。

和牛のリーダー県岡山 に期待する

和牛生産もやっと最悪期を切り抜けて改良と増殖に真剣にとつ組まねばならない時が来た。第一回全国和牛産肉能力共進会の総決算が岡山市で行なわれてから、早や一年にならうとしている。岡山県和牛人の総力を結集して、あの華々しい成果をえたことをいつまでも忘れてはならないし、これから和牛は何ででもかでも岡山に見習え、という意気込みで進んでもらいたいと切望する。あの共進会の成果の第一は、今後の和牛改良に対する明るい見通しと、力強い確信と希望といったものを一同に深く植え付けてくれた点であることは間違いない。この結果三十年に改正された審査標準も五年たった今日、さらに改正されようとしている。岡山県は新しいことで良いことなら積極的にどんどんとり入れて消化できる県であると私は信じている。というのも、昔、二十二・三年頃、私が農林省農業改良局普及部にいた時、保温折衷苗代、二四D、螢光誘蛾燈など新しい技術普及に対応して、積極的に乗り出したのはこのあたりでは岡山、兵庫の両県であったと記憶しているからである。こういった県全体のムードこそいつまでも続いているに違いない。

和牛のリーダー県岡山
に期待する



島根農科大学教授
加藤正信

改良と増殖に真剣にとつ組まねばならぬ時が来た。第一回全国和牛産肉能力共進会の総決算が岡山市で行なわれてから、早や一年にならうとしている。岡山県和牛人の総力を結集して、あの華々しい成果をえたことをいつまでも忘れてはならないし、これから和牛は何でもかでも岡山に見習え、という意気込みで進んでもらいたいと切望する。あの共進会の成果の第一は、今後の和牛改良に対する明るい見通しと、力強い確信と希望といったものを一同に深く植え付けてくれた点であることは間違いない。この結果三十年に改正された審査標準も五年たった今日、さらに改正されようとしている。

岡山県は新しいことで良いことなら積極的にどんどんとり入れて消化できる県であると私は信じている。というのも、昔、二十二・三年頃、私が農林省農業改良局普及部にいた時、保温折衷苗代、二期・四D、螢光誘蛾燈など新しい技術普及に対応して、積極的に乗り出したのはこのあたりでは岡山、兵庫の両県であったと記憶しているからである。こういった県全体のムードこそいつまでも続いているに違いない。

次に岡山県だけのものとして和牛試験場があることがよい。新しい大事なテーマを捉えて、早くから成果をあげている。本年度農林省の国有林野肉用牛生産育成

実験事業も新見の六〇〇ヘクタールが全
遺伝質によつてきまる牛の個体の大き
さの上限、下限の範囲は非常に広い。む
しろ飼養管理の影響が大きい。
肉量の判定には外貌審査よりも牛衡器
による方が客観的で正しい。岡山牛の優
秀さが牛衡器により客観的に証明された
わけである。これは牛の遺伝質と人為的
努力の和であつて岡山の牛の遺伝質と飼
養管理技術の優れていることを示すもの
であるが、今後とも、これらの点を一層
のばすよう努力して戴きたいものであ
る。

六席、二等賞の一席は岡山の牛であった。これは本県の肥育技術の水準を示すものである。

従来、わが国には種畜行政はあったかも知れないが肉牛に関する限り眞の意味の畜産行政は不在であつたようと思われる。和牛飼養農家は殆んどすべて種畜家の存在であつた。種畜の生産は畜産の重要な一部分である。しかし、畜産の最終目的は畜産物の生産である。これに、たゞさわる農家は種畜家である必要はない。優秀な岡山牛の生産を背景に、種畜農家でなくとも畜産農家として肉牛生産にたずさわる人が多数出て来て、企業的肉牛生産業が盛んになることを望むものであら。

(四) 肉牛の産肉能力は肉質、肉量、発育促度、飼料の利用性の高さによってきめられる。わが国の肉牛は国民の食肉問

題の改善に貢献できるものでなければならぬはならない。従つて、肉牛の資格条件の重要性は肉量、発育速度、飼料の利用性、肉質の順序になるようと思われる。この事実に目を覆うならば、それが辿る道は自ら明らかである。

幸いにして岡山牛の産肉能力が優れて
いることは、今回の共進会で充分に立証
せられたが、岡山の牛と云わず、日本全
体の和牛が理想的の肉牛として、世界の肉
牛の間に伍し、むしろ、それに一步先ん
じて貰いたいものである。

和牛の体型 資質に地域差のあることは事実である。この地域差も交通の発達および人工授精の普及による交配圈の広域化によつて次第になくなるであろう。しかし、たとえそれがあつたとしても、現在、肉牛が当面している諸問題に比べ

れば、県境的地域差などは全くとるに足らない微細な問題である。次のゼネレー
ーションが飼育意慾を燃やすような牛、そ
う云う和牛の造成に岡山の牛がわが国の一
リード役として貢献して貰いたいもので
ある。

和牛の産肉能力

牛」 18卷第2 の起因について

「和 第 全国和牛登録協会長 羽部義孝」

月岡山市において開 なく役牛であるから、肉牛たる資格

催した本会主催全国和牛産肉能力共進会岡山会場を観て、また更にこの度頒布したその報告書を読んで、現在の和牛はその産肉能力において決して外国肉用種に劣るものではなく、飼育環境などからその産肉性を考えると、わが農家の飼育する肉用牛として最適の牛であるというこ^トを素直に理解する者もあると思うが、一方においては所謂半信半疑のままその日を過している者もあろうし、或は一部には今日かかる産肉能力のすぐれた牛が和牛におけるといふことが不思議でならないとする者もあることと考へる。この不思議の念はどこからくるかといふと、次のような誤った既成観念から生れてくるものと思う。すなわち從来和牛は肉牛で

す産肉能力などがこのままで外国肉用種に優るとも劣らぬものとなるなどは全く痴人の夢であるという考え方である。

御承知の通り、私は約四十年前から和牛を役牛とか、役肉用牛などと呼ぶのは誤りであって、和牛は役用牛であつて役用牛でなく、肉用牛であつて肉用牛でない。役用牛でもあれば肉用牛もある。強いて用途名をつけなければならないなら農用牛とも呼んだら宜しいだろうと申して來たのである。

すなわち和牛を役牛とか或は役肉用牛とか呼ぶことは、その本質に対する認識を誤らせるもので重大なる過誤を冒すことになると申して參ったのである。

緊要であると考えるので、和牛発達の史観的考察から今日の和牛の産肉能力の優秀性の因つて来る所以を述べてみることにした。

うつてその変異の幅が驚くほど広くなつた
が、これも登録の励行、選択淘汰の続行
と飼育環境の影響によつて今日のよう
に揃つたものになつた。雜種時代以後、各
地の産牛の資質には相当大きな差違があ
つたが、選択淘汰と交配と登録の励行に
よつて、今日では雜種時代のような不良
なものはなく中等程度以上のものが多く
なつた事は申すまでもない。そこで役用
能力と肉用能力と体の大きさ、体型資質
との問題はどうであるかを考えてみる。
まず牛そのものだけについて申したの
では不徹底である。すなわち和牛は經濟
動物であるから、その地方の産業との結
びつきについて考えてみなければ到底真
相を掴むことは出来ない。

少くとも今から約百数十年前頃においても但馬、丹波地方の産牛は京阪神津地方における車力用として、また紀泉大和における農用として需要が多かつたので、鞍持ちの良いために前肋は張らずに後肋の良く張つたもので比較的長脚のものが喜ばれた。これに対して他方中國の脊梁山脉の両側に位する地方の産牛は主として粗煉砂鉄塊の運搬に牛背が利用されたので、自ら背腰、肢蹄が堅固で低身なものが希望されたものと考えられる。以上が昔の和牛の産業による用途と体型との関連上重要な点であると申すべきである。かくの如き関係は時代の変遷に伴つて漸次薄くなつたけれども、しかしこれが永くその地方の産牛の特色として保持されて来たことは否定出来ない。

筋の張りが良く、背腰広く平らで尻が傾斜せず、後軀の幅のあるものは何れも好まれたのであるが、特に肩の厚さが問題にされたとすることは、申すまでもなく役用型と肉用型との何れを採るべきかということを意味したものであつて、この両型が何れの産地においても出現していき、登録審査の上に反映していくので問題になつたことである。

また所謂晚熟性や早熟性を一種の商標の如く各々振りかざしてその地の牛の壳込みに懸命になつていた頃は、前者は役用向きであり、後者は肉用向きであったこれを要するに和牛には雑種生産以前から产地によって役用向きのものが主となり、肉用向きのものが従となつていた地方と、その反対の地方とがあつたけれど

また、低身重厚型の本場である、岡山
広島地方の種牡牛には模範的な肉牛型の
ものが数頭、私の頭の中には直ちに浮ん
でくるのである。かくの如く、今日の肉
利用型のものは從来も既に和牛の中に存
在し、この系統が続いて来たことは正に
事実であると申される。

然して國民生活の向上に伴つて、農業
方式も変り、数年前から役利用は殆んど
必要とせず、主として肉利用を飼育目的
とするに至つたのであるから、問題は非
常に簡単にになって、從来ややもすれば從
たる目的であった肉利用面が主たること
になつたので、肉利用面の形質が急に脚
光を帶びるに至つたのである。かく考え
てくれば、今日かかる産肉能力の優秀な
ものが存在するということについては何
一つ疑義はないであらう。

申述べておき度いと思う。
産肉能力や産肉性という言葉は今日、ややもすれば区別なく使われているよう思われるが、区別して定義をしておくことが今後便利であると思うので私見を提案する次第である。

産肉能力とは肉を生産する能力であるから、飼料の利用性（嗜好性、食欲も含めて）は勿論、体型、体重の発育、増体量、屠肉量、屠体歩止、精肉歩止、肉質等について考えられる能力で、その主因は遺伝的関係であるが、環境もその能力の發揮に重要な要因となる。従つて産肉能力検定は、個体のベストレコードを検定しなければならないからベストコンディションの下において行わなければならない。すなわち、ベストコンディションを与えてベストレコードをみるということが能力検定の基本的考え方であると思うが、これが種々の事情によつて時

また狹身長脚型の産地においても重厚型のものが生産されることもあり、低身重厚型の産地においても時に狹身長脚型の牛が生産されることもあったが、登録事業が進展し、良牛に国境なしという思想が各産牛県の鎖国的思想を漸次改変させてゆくに従って、旧来の産地の特殊性は少くなり普遍性のものが多くなって来てここに今日の和牛の成立を見るに至った次第であるが、ここに特に申述べておかなければならないことは、大正末期に至つて主要生産県は何れも和牛登録を実施するに至つた頃に、肩の薄いものと厚いものと何れが宜しいかという質問を受けたことがある。勿論何れの地方でも後

とも、何れも役用向きのものを肉用向きのものも生産されていたのであって、これらを利用する農家は育成飼養管理を適合させることによって飼育目的に合致させて来たのである。今実例をあげて説明すれば、かの晩熟を商標とした但馬牛の中から三重、滋賀の肥育業者は肥育経済に適する個体を選んで立派な肉牛にして参った、すなわち発育においても、屠肉歩止りにおいても、肉量、肉質共に世界的に肉牛を生産して来たのである。只、その肥育時期が旧慣に囚われていただけであるから、今日これを改めて新時代にふさわしい肉牛とするのに何の困難もないことは諒解されると思う。

肉用型のものとがあつたが、その中から
肉用型のものを採り出すことになつたと
いうことである。

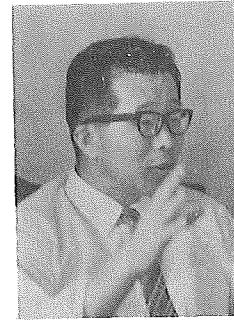
従つて今後は所定の産肉能力検定を厳
正に行って、これを登録と育種に反映させ、
この能力の向上齊一化に努めれば宜
しいのである。殊に和牛は今日わが国農
家の飼育環境に適合していることを考へ
れば、和牛の増殖に何んの不安も存在し
ないということは大きな優れた利点であ
るといふべきである。

○

次に序に産肉能力と産肉性について

には変更して行わられる場合もある。
次に産肉性とは肉を生産する経済的性
格（経済性）と考えたいと思う。すなは
ち、産肉能力の外に経済性を加えて考え
る。従つて肉牛の飼育環境によつて単に
産肉能力の高いものが必ずしも経済性が
高いとは申されない場合もあり得る。（ま
た地方事情によつては止むを得ず（土地
飼料、労力等の関係から）産肉能力をコ
ントロールした方が経済的である場合も
あるであろう。しかし特殊な例外を除き
一般的に申して産肉能力の高いものが産
肉性に富んでいると申して宜しいのでは
あるまいか。

以上の提案について大方の検討を煩わ
し度い。



(7月3日経済連会議室において)

和牛放談会

岡山県畜産公社事務局長 岡山県農林部畜産課課長補佐
岡山県當食支局長

產課長易長（五）

最近の肉用牛問題は極めてやかましい。もっとも牛肉の不足は我国だけのことではなく、世界的な傾向でそれが貿易量として目に見えているのであるから当然ともいえる。国は肉食原産国に対する考え方

岡山県農林部畜産課課長補佐
岡山県和牛試験場長
藤渡辺滋樹
井英一郎

安東秀豐 岡山県經濟連畜産課長
瀬島源喜 岡山県營食肉市場長
司会知事 岡山県畜産会事務局長

東の批評

蔵知……岡山県は肉用牛生産振興計画を作り、指定地区も決つて振興を図つてゐるが、どうも肉用牛は指導の面でかなり遅れているという感じがする。昔から和牛は無策の策で、行政面では手を付けようとえつて逆効果になることもあつたわけだ。これがガンになり政策面でも遅れをとつてゐる。

肉不足が叫ばれ、肉用牛生産地が移動してかつての馬産地が大きく伸びてきた現在、岡山県の肉用牛はこれでよいのか今迄の和牛の考え方から脱却する必要があると思われる。岡山県は純粹種繁殖で生産に主を置くのか、肉牛生産になると純粹系統を繁殖しそれをもとに雑種作成の問題も出てくる等、色々問題があろう。これらをザックバランにお話いただきたい。

最近の肉用牛問題は極めてやかましい。もっとも牛肉の不足は我が国だけのことではなく、世界的な傾向でそれが貿易量として目に見えているのであるから当然ともいえる。

国の肉資源確保に対する考え方が甘かったのに気付いたためか、はたまた消費者のつきあげがはげしかったためか知らないが、国は県を、県は市町村、関係団体を叱咤激励して一丸となって肉用牛振興に取組んでいる。しかしこれには経済がともなうので一様にはゆかないであろうが、すでに熱意ある農家では、生産にしても肥育にしても自分ペースでもって、我々が考える以上の規模なり經營を作り上げている。

そこで岡山畜産便りではこのよくな情勢に対処して、これら一連の座談会を開き、県の指導者層の固くならない意見、肥育農家、生産農家からは實際に直面している意見を聞き参考にすべく掲載をした。

なお、この座談会に出席いただいた諸賢に誌上よりお礼申し上げます。

渡辺明……ご承知のとおりここ数年来和牛は、生産の減退に加え、肉用と殺の急増によって、その飼養頭数は地すべり的な減少をみている。このため一昨年頃より国内の牛肉需給は非常にひっ迫し、牛肉かずのこ論まで飛出し、大きな社会問題になつてゐる現状だ。しかも世界的に牛肉の需要が著しく伸びて、輸入もう大きな期待はもてないということで、肉用牛の振興ということが大きくクローゼアップされたわけだ。このような状勢から国におきましては四十一年度から重点施策として取り上げられ、繁殖雌牛の導入、繁殖育成センターの設置等新制度の発足をみたわけであるが、特に昨年五月畜産局長通達をもつて県に対し今後の肉用牛振興の基本方針が示された。

即ちその考え方は、第一には飼養頭数の減少をこらでくい止めて肉用牛資源を維持増大するため緊急的に増産をはか

の緊急的増産についてはご承知の
、昨年生産地帯の市町村のご協力
で岡山県畜産公社を設立し、繁殖
雌子牛・姫姫牛）の緊急的な導入
による省力多頭経営の展示普及を
ている。

に指定しているが、これら市町村においては四十六年を目標とした肉用牛生産振興計画が策定されたので、今後は国ならびに県の方針、市町村段階における自主的計画が一体となるよう施策の重点実施をはかってゆきたい。

なお、先の特別国会で、肉用牛に対する所得税が今後五カ年間免除される措置がとられたが、これは多頭飼育経営の推進上大きな福音であり、更に子牛価格安定制度についても本年度中に発足を見る予定であるので、これらの点も十分 P.R. して、積極的な振興に結びつけてゆきたい。いと考へて いる。

蔵知……共進会なんかみると、共進会のものを交配してゆけばよいものができる外国から何を導入する必要はない。

渡辺明……共進会のものと、実用的なものとに分かれているという感じがするが。

（として）はつきりしてきた段階において実用的なものと共進会用のものは同じではないか。共進会での審査がまちがっていなかつたからここまで伸びて来たんだから、それ相当の能力があるとみなさなげに仕上げるということをいつているのである。

基本方
蔵知……和牛の改良ということについて
加味し　て、登録上からみた問題点なり、今後の
対策についてどうですか。

藤井……戦前は有畜農業が大いにもて
牛資源　はやされ、當時最高は一二万頭ぐらいだ
をはか　と思う。ところが戦後はご承知のような
ること、情勢から急激に減少し、現在は半分の六
第二に　万二千頭ぐらいである。

は長期、私は最後には肉にするのだという考え方
計画的　から、実測して審査標準に合ったものを
に振興　高くかっている。ところが多くの審査員
をはか　は、昔流の牛に高い点をつけている。だ
って、　から農家の人はいつまでたっても美しい

ものを作ろうとする。体格を最重点にし、和牛産肉能力共進会のような成績がとれたのだ。肉牛として素質のよいものを合理的に飼うことのみを指導すればよい。一般農家でもカンカンぐらいもって、何ヵ月では体重をいくらにしなければだめなんだというように、肉畜という観念をうえつける必要がある。

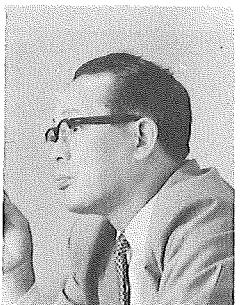
しかし、細かい点はぬきにして、今段階では岡山牛は肉畜であるといつてしつかえないと思う。日本の肉畜として

月間が勝負だ。

渡辺滋……産肉能力については昨年の全共で和牛の力が証明された。ただ問題は、産肉性の齊一化である。能力の差が大きすぎる。

改良上、種牡牛が重要な柱になることはもちろんで、種牡牛をあずかる我々としては責任を痛感している。現在大佐町の和牛センターでは三〇頭の種牡牛を繋養し、年間約六万本の精液ストローを生産している。種牡牛は体型資質はもちろん、産肉能力の高い牛を選び供用するた

岡山牛はすでに肉畜になってしまひ



渡辺滋……現在は検定期間を三三〇日としている。早める為には、種牡牛の供用を早めることと、精液のある特定地域に集中的に分配して、子牛のサンプルを集め易くする方法などよいと思ふ。

藏知……直接検定法で、試験場で早くつぶして早く結果を出すようにしてもらいたい。
渡辺明……今年度の補正予算でみとめられた優良肉用牛育種改良事業を、八月には色々な意見を聞いて具体的なものに

具合に何でもよいから生産されたものを
生かしてゆくのかどちらがよいか。
渡辺滋……凍結精液については今年の
予算で、純粹種を作るために大いに活用
するつもりだ。

藤井……和牛は純粹ではない、雑種で
ある。現在の和牛の中から淘汰して、肥
育に適したものを作つてゆくことのほう
が急を要する。

蔵知……登録と関連して共進会の審査
の問題について何かないか。

県はそれらの原種、原々種の供給地としての地歩を固めてゆく必要があり、和牛の改良増殖には一層高度の技術でのぞむと考えであります。

蔵知……素人考えでいうのだが、岡山牛の種牡牛を大型化して全体を大きくすることはできないか、また昔からよくいわれているようによい子牛を育てるには乳が多く出なければだめだから、乳徴のよいものに登録点数を多くやることはできないか。

藤井……もつともであるが、簡単にやかない。登録の上からも乳器を考慮しているが実効が表われるのは十数年先だろう。和牛センターの第六藤良系の乳はよい。う。瀬島……どうしても乳器より姿が先に

山県の が、岡
たいがいのものは一四〇cmある。
渡辺滋……和牛センターの平均が一四〇cmある。県の振興計画でも一四〇cmと
している。ただ体高をむやみに高くすると足ばかり伸びて、巾がともなわない。
そうまで体高を伸ばす必要もないかと思われる。

藤井……そのとおりで、体高のみにと
らわれてはいけない。各部との釣合がと
れていいなければだめだ。

瀬島……種牡牛を育成する場合、背を
大きくしようとばかりして、餌の関係も
あって助張りがでないと違うか。

決めたい。これは集団育種で、雄の検定も合せて行い、いいものを確保保留して改良をはやめてゆきたいと考えている。

藏知……繁殖基地としての岡山県の立場を考えて、指定地区との関連を深めて保留下制度、認定牛制度を設けること、また将来を考え優良牛に対して交配の指定までしてゆくことを考えてほしい。もう一つは凍結精液の問題で、これの活用を優良牛に対してフルに活用してほしい

藤井……全て必要なことであるが、デリーダインの高い種牡牛を作ることが焦眉の急だ。岡山県は但馬のような肉を作るのでなく、二〇カ月の若令肥育を目指に進めるべきである。

蔵知……将来は雑種強勢の問題も出て

藤井……審査のやり方が変わらないのなら、種牡牛の共進会は止めてもよい。
渡辺明……去年一年間子牛価格安定の問題で、子牛の基準価格を作る為の規格設定の委員として中央に五回程いつて色々データを調べてみたが、岡山県の牛は六ヶ月のものの八〇%が体重一八〇kgあり、改良が一番進んでいた早熟性でも優れており、共進会の審査方法が間違つていなかつたことの証拠だ。
今迄のようプロばかりが出品するやうり方には批判があるが、こゝで手抜きすることはいけないと思う。一年に一頭しか生れないのだから、絶えず努力しあらゆる機会を利用して改良をやってゆかなくてはならない。

-16-

A black and white portrait of a young man with dark hair, wearing a light-colored dress shirt and a dark tie. He is smiling and looking slightly to his left. The background is blurred, showing what appears to be an indoor setting.

總會事務處處長公報：據悉，
子雲在任內，因公報失誤，被撤職。

にする必要がありはしないか。
渡辺滋……何点何分というようない点の
つけ方は不要ない。A B Cで結構だ。外
国では乳牛については、エクセレント級
ベリーグッド級などと大きく分けている
渡辺明……そこで考えなければならな
いことは、和牛の改良についても少し若
いへ、二毛アーチー、三毛アーチー、四毛アーチー

ではいためだ。高く売れるから登録もするし、共進会に序列があるから出品する意義がある。

あい

全飼料 養豚用・乳和 濟連・

一肉生

配給 岡山県經濟連・農協

基準で余りよい点が出ていない。一七年間に牛の改良は実に著しいものがあるのだから、八五点くらいの牛がどしどし出てもよいのではなかろうか。特に若い飼育者にとって、科学的に改良が明示されはずみがつくのではないだろうか。

安東……ランクに分けて審査するのが時代にマッチしているという話がでたが、改良というものは、我々知識人がどうこ

藏知……これからは和牛は、規模、飼料基盤の整備、飼養技術等の問題が大きく取上げられると思う。頭数が減っていくのは経営上の問題だ。儲かるようにするにはどうしたらよいか、また繁殖地帯、肥育地帯での規模はどの程度がよいと考えられるか。

渡辺滋……頭数を減らした理由を直接農家に聞いてみると、基幹労力が他産業に転出したこと、子牛価格が不安定だったことをあげている。また牛価がもち直

ゆたかな 経営を…

安東……ランクに分けて審査するのが
時代にマッチしているという話がでたが、
改良というものは、我々知識人がどうこ
育者にとって、科学的に改良が明示され
はずみがつくのではないだろうか。

度辺滋……頭数を減らした理由を直接農家に聞いてみると、基幹労力が他産業に転出したこと、子牛価格が不安定だつたことをあげている。また牛価がもち直と考えられるか。

見えて、肥育の経験はなしに始めました。

濃厚飼料の節減を図っています。

うまくやっているのを見て習ってやりました。できるだけ金をかけないで鶏舎を改築し、最初三頭肥育してみてよいので二〇頭にし、来年は三〇頭ぐらいにしてみたいと思っています。

渡辺俊……タバコも作ったし、出稼ぎもしましたが、人手をすごくくうので切替えたんです。

坪井……私は副業にセメントガワラ造りをしていますが、原料が値上がりしてなかなか難しくなりました。そこで何かを思い、安藤さんのやつておられるのを見て、肥育の経験はなしに始めました。



(司会の藏知氏と渡辺氏)

素牛は質で選び省力多頭飼養

藏知……皆さん初心者の方が多く、農協が預託制度を始めてから本格的になったんですね。希望した頭数が入りますか。那須……大体希望どおりに入つております。昨年は三〇〇頭導入しました。

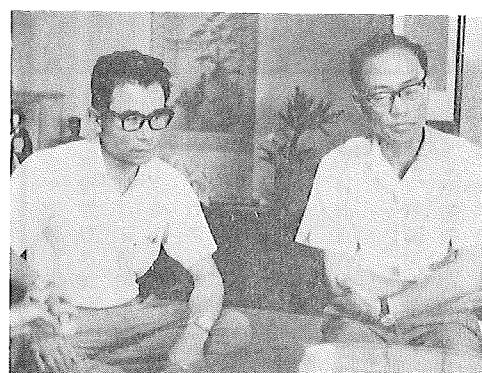
藏知……購入はどのようにしているのですか、また今後の計画は。

大山……今まで壮令肥育で一二ヶ月ものに主体をおいていますが、素牛がこう高くなると六ヶ月ものを買つて六ヶ月間ぐらいい群飼で運動させて、その後繋ぎで肥らせる若令肥育を進めたらと考えて今年から始めた。ただし飼育期間が長くなりゆくにはどの程度の技術を習得すればよいのかまだ検討が必要ですが、今年は四〇〇頭の導入のうち一五〇頭は若令肥育が入ると思っています。

渡辺俊……運動させる方法を取り入れてきましたが、年もとりましたしもつと楽なことをと思い、視察でみた肥育を一、二頭やっておりました。これで自信をつけて増頭したのです。

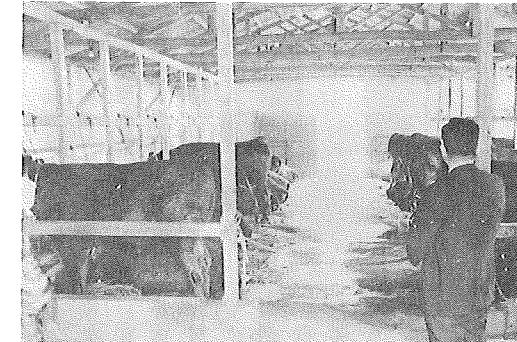
坪井……私は副業にセメントガワラ造りをしていますが、原料が値上がりしてなかなか難しくなりました。そこで何かを思い、安藤さんのやつておられるのを見て、肥育の経験はなしに始めました。

安藤……ええ、労力的にも楽だし、若い時のから作りということで喰込みもいよいよです。粗飼料は裏作利用で牧草を作付け、これで乾草を作り若令に与え



(大山氏と那須氏)

安藤さんの牛舎、飼料置場を含めて50坪あるが、ここに仕上牛が20頭つながれている。まさに肉をつくる工場である。



肉牛肥育座談会

企業肥育のめばえ

(7月5日、安藤登氏宅において)

藤口、辺坂、井尻、須山、辺知、那大、渡藏、祐俊、治夫、二記

出席者

五〇頭なら二人でやれる

藏知……皆さん二〇頭以上、多い人は四〇頭も飼養されていますが、最初の動機は何ですか。

藏知……今日は、実際に大規模肉牛肥育をされている皆さんに、色々お話をうかがおうと思いましてお忙しい中をご無理をお願いいたしました。矢掛地区に肉牛肥育を大きく入れた点について那須さんひとつお願いします。

那須……この地区で肥育を始めるに当って四十年頃から農協と話合つたのです。

経済連が肥育事業を行うとなると、関係

業者とも競合があるし、また環境衛生問

題も出易いが、将来畜産でどうしても伸びゆくためには肥育が一番よいと思つ

田口……私は前からやっていたんです。

二才子が安いのに目をつけ、これを大き

くしたらと思いついていたが、始めのう

ちは何やらさっぱりわからずいつ止めよ

うかと思っていた。今では糞の処理に一

番困るが、労力的には二~三人で五〇頭

程度は十分やつてゆけると思います。

田尻……種鶏を五〇〇羽程飼つていた

が、卵価の変動が激しいのとまた種鶏は

平飼いだから増やすことが難しいので、

何か安定したものと思ひ、田口さんが

定はどうされていますか。

藏知……ちょっと拝見しましたら相当よいものが入っていましたが、素牛の選

定はどうされていますか。

田口……別にないですね、やはりその

市場、倉敷市場で購入しています。

藏知……産地別で差がありますか。

田口……別にないですね、やはりその

いで広島の神石産です。壮令ものは尾道

牛の素質によります。岡山牛がよいといつてもそんなに差はありません。

藏知……素牛の産地はどこですか。

那須……若令ものは眞庭産が多く、次

年から始めた。ただし飼育期間が長くな

りゆくにはどの程度の技術を習得すればよいのかまだ検討が必要ですが、今年は

ますが、農協が大巾に援助すれば結構やれると思っています。ただ大きく進めゆくにはどの程度の技術を習得すればよいのかまだ検討が必要ですが、今年は

四〇〇頭の導入のうち一五〇頭は若令肥育が入ると思っています。

渡辺明……運動させる方法を取り入れてみてどうですか。ただ肥育期間が一年以上になるし、粗飼料の点もあるし、これを作付け、これで乾草を作り若令に与え

のですが、この地域は新しく技術も初步の段階ですので、金額にこだわらず素質のよいもの、飼いいいもの、たくさん飼えるものを選んで入れていくのがよからうと思って選定しています。

藏知……去勢はどちらでやっています。していよいものは買ってきて二~三ヵ月後、性ホルモンの動き出す前をねらってやっています。

那須……大体去勢しているものを入れています。していよいものは買ってきて

二~三ヵ月後、性ホルモンの動き出す前をねらってやっています。

藏知……みたところ全角をもつていています。ここでは渡辺さんが初めてやつたが、割合おとなしいものですね。

田尻……繋ぎにしたときにかえって綱が抜けなくていいです。(笑)

藏知……去勢の時期さえ誤まらねば差しつかえないんでしょうね。次にエサは

どういうものを使っておられんですか。

小坂……農協のものを使っています。

那須……経済連の肉牛配合飼料を全期間使うのはどうかと思ったのですが、技術も浅い地域があるので一番一般的な方法をとつたのです。それでも肥育初期には蛋白をふやすために大豆粕を、末期には麦を、個体にあわせて加えています。

しかし、肥育のうまみはエサの使い方にあります。今後経済連の指導で改善して

(39才) 飼養
41頭飼養
(41才) 飼養
36頭飼養
(39才) 飼養
31頭飼養
(57才) 飼養
28頭飼養
(45才) 飼養
26頭飼養
(39才) 飼養
21頭飼養

進章喜(経連笠岡支所)
那大渡藏(矢掛町農協畜産課長)
明毅(矢掛町農畜産課長補佐)
(県畜産会事務局長)

大山……矢掛町は昔は生産地であつて、PRし、幸い皆さんの理解を得て、最初は色々な規模で始めたが、相当の人が止めました。初めから腹をくくつてやつた人が現在大きくなっているのです。

安藤……矢掛町の全体的な概況について課長さんお願いします。

大山……矢掛町は昔は生産地であつて、PRし、幸い皆さんの理解を得て、最初は色々な規模で始めたが、相当の人が止めました。初めから腹をくくつてやつた人が現在大きくなっているのです。

安藤……矢掛町は昔は生産地であつて、PRし、幸い皆さんの理解を得て、最初は色々な規模で始めたが、相当の人が止めました。初めから腹をくくつてやつた人が現在大きくなっているのです。

牛にはなじみの深いところで、所得向上を目指して肥育を取入れる場合もスムーズであったし、二〇頭三〇頭になつても三、四時間で省力管理ができる労働生産性が高いこともあるので多頭化にもつづけてきました。三十八年頃からボツボツやり始め、四十年には肥育地帯としての基盤が整い始め、四十一年には我々が開いてきたような大規模経営の農家が現われてきたのです。問題はこれをどう方

向付けるかです。

藏知……皆さん二〇頭以上、多い人は四〇頭も飼養されていますが、最初の動機は何ですか。

田口……私は前からやっていたんです。

二才子が安いのに目をつけ、これを大き

くしたらと思いついていたが、始めのう

ちは何やらさっぱりわからずいつ止めよ

うかと思っていた。今では糞の処理に一

番困るが、労力的には二~三人で五〇頭

程度は十分やつてゆけると思います。

田尻……種鶏を五〇〇羽程飼つていた

が、卵価の変動が激しいのとまた種鶏は

平飼いだから増やすことが難しいので、

何か安定したものと思ひ、田口さんが

定はどうされていますか。

藏知……ちょっと拝見しましたら相当よいものが入っていましたが、素牛の選

定はどうされていますか。

田口……別にないですね、やはりその

いで広島の神石産です。壮令ものは尾道

牛の素質によります。岡山牛がよいといつてもそんなに差はありません。

藏知……素牛の産地はどこですか。

那須……若令ものは眞庭産が多く、次

年から始めた。ただし飼育期間が長くな

りゆくにはどの程度の技術を習得すればよいのかまだ検討が必要ですが、今年は

ですが、農協が大巾に援助すれば結構

やれると思っています。ただ大きく進めゆくにはどの程度の技術を習得すればよいのかまだ検討が必要ですが、今年は

四〇〇頭の導入のうち一五〇頭は若令肥育が入ると思っています。

渡辺明……運動させる方法を取り入れてみてどうですか。ただ肥育期間が一年以上になるし、粗飼料の点もあるし、これを作付け、これで乾草を作り若令に与え

られています。

藏知……去勢の時期さえ誤まらねば差しつかえないんでしょうね。次にエサは

どういうものを使っておられんですか。

小坂……農協のものを使っています。

那須……経済連の肉牛配合飼料を全期

間使うのはどうかと思ったのですが、技術も浅い地域があるので一番一般的な方法をとつたのです。それでも肥育初期には蛋白をふやすために大豆粕を、末期には麦を、個体にあわせて加えています。

しかし、肥育のうまみはエサの使い方にあります。今後経済連の指導で改善して

坪井……給与は省力化の目的で、大体粉餌のまゝ与えています。

蔵知……粗飼料についてはどうですか。

安藤……どうしても稻わら主体になります。それに裏作のイタリアン、現在はテオシント、デントコーン等も作っており、長いまゝ投げ与えています。

渡辺明……社令の場合はわらだけでもよいが、若令は良質乾草がぜひ必要ですからこれで苦労されるでしょうね。

田尻……稻わらにも苦労します。矢掛

は酪農も多く牛が多い所なのです。それに町のタタミ業者なども入り込んできて、競争みたいになって相場があがるわけで、我々も相当遠くまで買いにゆかなければならぬのです。農協が紹介してくれるか、協同購入の斡旋をしてくれたらと思いますが。



(安藤さんと田口さん)

ければ、ためたら蠅がわきますから。

渡辺明……田口さん、耕作面積は……。模が大きくなれば困っています。やはり田口……田畠合せて九反ですから、す

ての場所はすぐなくなります。

蔵知……尿の処理はどうです。

渡辺俊……これも数がふえれば問題にならぬでしようが、それにしても糞のよう

に固形物ではないから楽です。(笑)

蔵知……それじゃ糞の処理は将来どの

渡辺俊……これも数がふえれば問題にならぬでしようが、それにしても糞のよう

に固形物ではないから楽です。(笑)

蔵知……出荷段階になると、集団産地

として問題があると思いますが、計画出

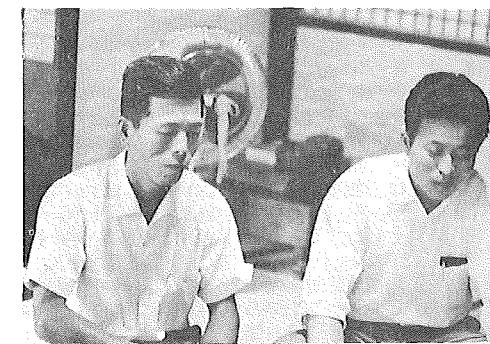
荷はやっておられますか。

那須……牛の仕上り具合、市場の状況にもよるが、三、四、五、六月は少く、九月頃から年末にかけては月当り三〇〇頭と出してゆこうと計画しています。ところが、岡山市場でさばきられるかど

うか心配しているのです。今迄はどうにか無理を頼んできたが、これからは他の市場へも出さないと、せっかくの産地が意味がなくなると思うのです。

蔵知……大体農協の出荷計画に皆さん

計画生産計画出荷で



(渡辺さんと田尻さん)

肉用牛の増産をはかるため、特例措

置によって、本年度より向う五カ年、

肉用牛として所定の手続きをとつて販

売する場合は、所得税は免除されるこ

とに至った。

これが受けられる者は、農業を営む個人か農業生産法人で、家畜商など商

売人は適用を受けられない。

また肉用牛とは、乳牛の雌と種畜証明書の交付を受けている種雄牛は含まれていない。しかし、乳用牛でも種雄牛でも、肉牛として枝肉市場へ出荷する場合は適用を受けられる。

売却にあたっては、①家畜取引法に

が合せているのですね。岡山市場頼りにならぬの声が出ています。

渡辺明……牛が少くなつて市場でも困っているのです。しかし牛肉の異常な値よりも需要が少くなり、一ぺんにどつと出ると冷蔵庫に長く入れるというような

ことになつた。

これが受けられる者は、農業を営む個人か農業生産法人で、家畜商など商

売人は適用を受けられない。

また肉用牛とは、乳牛の雌と種畜証明書の交付を受けている種雄牛は含まれない。しかし、乳用牛でも種雄牛でも、肉牛として枝肉市場へ出荷する場合は適用を受けられる。

い。

規定期に、家畜市場および臨時市場、(2)

中央卸売市場、(3)指定食肉卸売市場

(県営食肉市場はこれに入る)において売却される場合に限られておる。そ

してこれの適用を受けるためには、確定申告書を提出する場合、市場責任者が発行する書類と成立価格を証明する書類を添付すると共に、申告書に、個人の場合は免税を受けたい旨および肉用牛販売所得の明細を、また法人の場合は利益額を損金算入にすることを認められた旨を記載しなければならない。

ものすごい

フン量

蔵知……現在、技術的に困るような点はないですか。

田尻……別に今のところありませんが、一番困るのは糞の処理と蚊、蠅などの昆蟲対策なのです。

安藤……私は近所の果樹やそ菜栽培農家と、稻わらと交換しています。

田口……わらと交換するといつても、もって来いだからどうにもならない。冬の間は田んぼにでもすてられるが、夏の間が困る。山にでももつていつて捨てな

いですが。

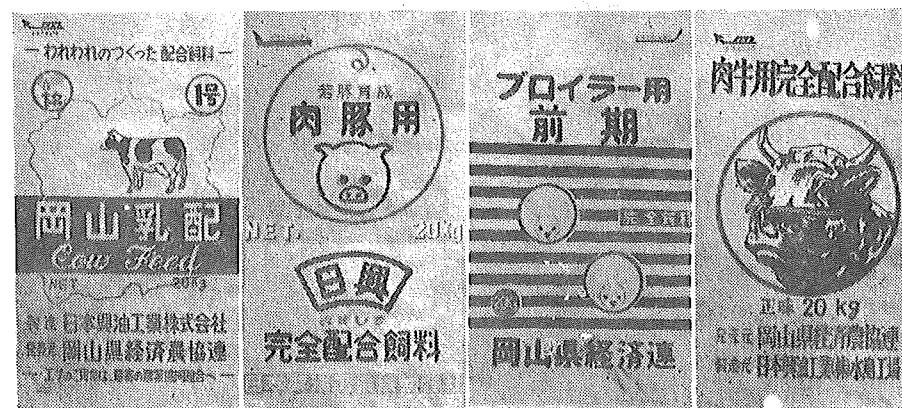
蔵知……指導面は農協なり那須さんがやつておられるのでしょうか、お困りの点はないですか。

那須……どうしても濃厚飼料多給によるので尿結石ができます。規模が大きくなれば濃厚飼料にますます偏重するので心配しています。あとはカシテツ、皮肤病などですが大したことはありません。

矢掛町には新しい保健所ができたのですが、から協力を得て、定期的検査などの方法を講じるようしたいと思います。

製油工場から栄養ある新飼料

嗜好性と消化率がよく栄養価の高いお徳用飼料
牛・豚・鶏の飼育に理想的な配合をとっています。ぜひ一度お試しください。



発売元 岡山県経済農協連

御用命は農協へ

い込みが牛体を維持し、乳の出もよくするものだと思って飼っています。

十一月頃セリに出そうと考えています。これら子牛を全部舎飼いすることはできないので、放牧場の側に休憩所と一反ぐらいいの運動場を作り子牛を入れて別飼いし、更に増頭を進めようと思います。

「山に結びついた和牛振興」

A black and white portrait of Shigenobu Kubota, a middle-aged man with dark hair, wearing a light-colored shirt and a dark tie. He is looking towards the right of the frame with a slight smile. The background is plain and light-colored.

木様はまだ車を貰っていないのでゆくゆくはやりたいと思っていますが、草を利用して増頭をといつても、鈴木さんがいわれるよう敷わらが一番の問題になるのです。山の下草を刈つておいて使い、稻わらは一っさい使いません

うすることによって、経営面でもプラスになつてくると思ひますが。
藏知……種がつかない理由は三つ考えられ、その一は種牡牛の状態、二是人工授精師の技術、三是牝牛の状態です。種牡牛は県が管理しているからよしとしてまた授精師も国家試験を受けているのではあるが、受持ち地域全体の受精率が悪ければ授精師の技術が悪く、また農家とか部落だけが悪れば牛の飼い方がよくないということになりますね。

倉永……町役場で年四回は健康検査して回っていますが、部落に二、三人はいか

蔵知……それではすんでいる人と初歩の人とに分けて、再教育しないといけませんね。

なら別ですが、いまでも古い習慣を躊躇する必要はないので、新しい知識を取り入れて適切な方法を生みだすのが儲かる牛の飼い方ですよ。

この辺も預託牛は相当入っていると思いますが、皆さんはどうですか。

小椋……預託制度については私はちょ

石原……和牛を指導する人はやりにく
いと思う。代々牛を飼っているような熱
心な人はよく知つており、天狗になつて
いるから……（笑）。

のが一番よい方法だと思うのですが。
藏知……いわゆる混牧林ですね。牧野
改良も大切だが、山の利用と結びつけて
の草の確保も大切ですね。
鈴木……熱心な人ばかりならやれるが
そんなことは面倒くさいというような人
が多いので困ります。
蔵知……畜産公社では放牧場をもって
おられるが……。
井木……まだ放牧して三ヵ月程度で皆
さんにお話するようなことはありません
が、色々資料を
調べております
し、これからは
皆さんからお話
をうかがって、
ともどもに岡山県和牛の為に頑張りたい
と思っております。
石原……また日本の畜産の伸び悩みは
草を刈つて与えていることにあると思う
んですが。山につれてって喰わざなけれ
ばね。

「和牛の飼育も

「和牛の飼育も
進歩しなければ」

蔵知……繁殖についてはどうですか。
鈴木……人工授精師を頼んでいるが二
・三回つけないとダメな牛がいる。それ
でも晩つけたものにあくる朝もう一度つ
けると必ずつく
が種付けの時期
が悪いと思うの
です。発情の
状態はよいのだ
で、私はなんとか授精師の免許をとって
営業防害をしない範囲で自分の牛にだけ
は種付けしたいと思っているのです。そ
んなに傷めるものではないですね。放牧
は草丈が二〇cmになら早く出すこと
です。野草地の場合も同じで、これ以上
に伸ばすとロスが多くなるのです。刈り
取り利用と放牧利用の場合の使い方をま
ちがわないようにしてくださいといけません。



預託牛だけにして自分の牛は売ってしま
うなど筋違いであるから、こういう人は
はどうも遠慮してもらわないといかんで
すな。（笑）

入江……経済のことだからどう変るか
わかりませんが、過去のような変動は考
えられませんよ。

小椋……それがなければ、他人の金を
借りて自分の財産をつくるのだらいい
方法ですが。

— ますお客の好みはあれど

「まだお客様の耳みづかし」と心配なんですが、牛の値がたんたんと上がればよいが、一〇万円で入ったものが六万円にでも下がれば、赤字だけが残るような気がするのです。無理をせずに徐々に自分の牛にしてしまうべきだと思します。町あたりでやっているのをみても預託牛を入れたら自分の牛は売ってしまっているような状態です。

預託牛だけにして自分の牛は売ってしま
うなど筋違いであるから、こういう人は
はどうも遠慮してもらわないといかんで
すな。（笑）

入江……経済のことだからどう変るか
わかりませんが、過去のような変動は考
えられませんよ。

小椋……それがなければ、他人の金を
借りて自分の財産をつくるのだらいい
方法ですが。

さんとすればそれにこしたことないが。私はいつもいってるのですが、この辺は植林が盛んで、軟らかい下草が一つ

藏知……牛の歯をモアーレ替りに使え
といふのが世界の畜産の原則です。
小椋……私は旧態依然の放牧をやって
いますが、植林をすすめたら下草の一番
刈りは手で刈らなければいけませんが、
共同牧場の草の端境期の九月以降に自分

期間中の飼い方をしっかり勉強してほしいということです。

ス江……今迄の改良は共進会で優勝す

ることであったわけです。確かにいい牛

ではあったが、今後は小椋さんがいわれ

るよう市場性の高い牛を作ることです。

それがまた共進会での成績に通じると思

います。これからはハカリと目で見たも

のがある程度牛の本質と一致するとい

ことを、よく憶えておいて下さい。

蔵知……最近は乳用種の雄子牛の肥育

が盛んになってきており、早期離乳させ

るために代用乳を使っていますが、乳を

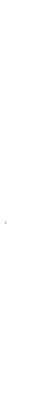
小椋……それからこれはお願ひですが、乳を

るために代用乳を使っていますが、乳を

小椋……それからこれはお願ひですが、乳を

ために代用乳を使っていますが、乳を

ブロイラーと 地鶏の手料理



ブロイラーと くいしんばう



よい魚やよい牛肉は、高くてとても庶民の口には合いません。そこで、どうしても手近なブロイラーや廃鶏肉ということがなります。鶏肉料理を、あれこれ考えるのは楽しい。別に責任があるわけではないからだろう。その無責任さから、独創的な鶏肉料理が数々生まれました。

蔵知……性質が荒くなるのは和牛ではいまではオスはぐんぐんのびるのです。十二～四ヶ月からで、生後六ヶ月めぐら六ヶ月育成して出せば値もよくなると思いますがね。

井木……この育成は、奥津町の大規模

草地と関連してぜひ考える必要がありま

す。

蔵知……近頃は肥育素牛が足りないが、その点、今迄どおりに六ヶ月で売らずに、オスはヌキにしてもう少し永く飼つてはどうですか。価格をあげる意味からも。

小椋……玉付きだと女の手には間にあ

わなくなるし、またうまく抜ければいい

んですが。

蔵知……性質が荒くなるのは和牛では

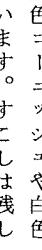
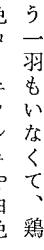
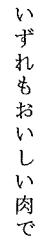
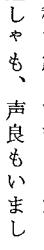
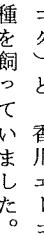
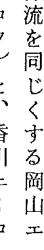
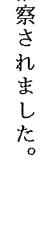
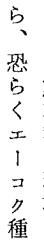
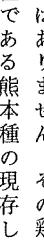
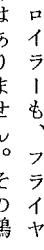
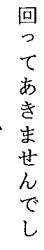
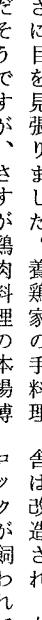
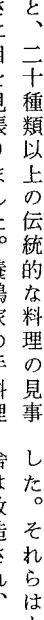
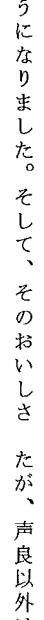
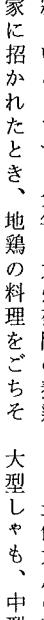
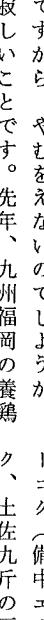
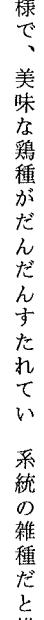
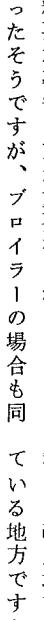
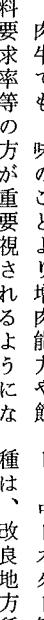
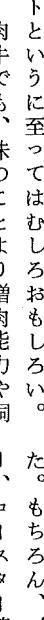
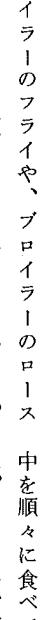
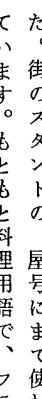
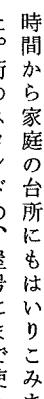
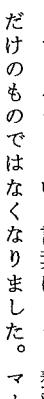
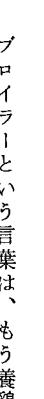
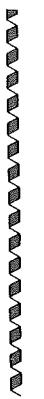
いまではオスはぐんぐんのびるのです。

小椋……玉付きだと女の手には間にあ

わなくなるし、またうまく抜ければいい

んですが。

ブロイラーの話題二つ



多く与えることは大切ですが、和牛も六ヶ月で売るのなら、その間により以上に発育させるために時期時期に与えるエサが盛んになってきており、早期離乳させることを、よく憶えておいて下さい。

蔵知……最近は乳用種の雄子牛の肥育

が盛んになってきており、早期離乳させ

るために代用乳を使っていますが、乳を

小椋……それからこれはお願ひですが、乳を

るために代用乳を使っていますが、乳を

小椋……それからこれはお願ひですが、乳を

のために代用乳を使っていますが、乳を

多くの素牛は一〇〇貫前後のものなのです。津山市場あたりに出るのは七ヶ月もので五五貫ぐらいです。この差をちぢめる

多めでやっていますが和牛はないので、和牛試験場へでも一週間ぐらい泊込みで行

りでやっていますが和牛はないので、和牛試験場へでも一週間ぐらい泊込みで行

りでやっています

生産、育成肥育、販売消費一貫事業の確立

☆岡山県経済連の和牛対策

計画的団地造成により経営合理化を図る!!

助成措置と農協、経済連の一體化事業で

食肉の消費増大に対応して肉用牛の増産を図るために、国及び県の行なう重点施策と呼応して、経済連では昭和四十一年度から和牛生産増強運動推進要綱を定め、地域を指定して和牛増産施策を推進するとともに、和牛肥育事業についても、地域を指定し、肉用素畜導入事業を軸に計画的事業の拡大を図り、和牛生産、肥育、販売、消費と一連の系統農協体制を整備し、和牛の恒久的団地の造成と流通体系の合理化を期す考えである。

経済連では計画的事業推進を図ることから、次の通りの助成措置を講じ、畜産農家と密着し、農協、経済連との一体化を図る。

(2) 事業を効果的に実施するに必要な繁殖牛を計画的に導入し、かつ、永続的に子牛の生産と共同販売を行うこと。

(3) 昭和四十二年度内において導入す

る繁殖牛は二〇頭以上であること。
『肉用牛繁殖素牛導入奨励事業実施要領』を設定し、肉用牛の生産基盤の増強と、肉用素牛の主産地形成を積極的に推進するため、昭和四十一年度から、肉用牛繁殖素牛を導入して預託事業を行なう農業組合組合で、次の条件を備えたものに対して導入奨励金を交付する。

(4) 本会の指定した和牛改良及び繁殖地内において、前年度において子牛を

本会の開設する子牛市場において販売して販売すること。

(5) 受託組合員の選定に当っては、飼料の自給度、飼養管理技術、生産意欲を

二、肉用素畜導入に対する金利助成と経営安定を図るため事故補償制度の確立

十分考慮して決定し、これに対して生産指導を行い、必要な購入飼料については系統飼料を供給出来るものであること。
『奨励金の交付額』肉用牛繁殖素牛は年度内に新規購入するもので、単価九万円とし、その百分の四に相当額を奨励金として交付する。この事業の適用を受けようとする農業組合は、肉用牛繁殖素牛導入助成事業承認申請書を本会に提出しなければならない。

区別	助成基準	助成金額	附記
人件費助成	年間 肉牛 300頭以上 肉豚 3,000頭以上 " 肉牛 200頭以上 " 肉豚 1,500頭以上	月額 10,000円 " 5,000円	○助成基準頭数は年間の導入頭数とする(本会の委託購買頭数) ○年間の事業計画と実績により交付する。
金利助成	規模拡大(牛10頭、豚200頭以上)施設資金500千円限度	金利3%	○年度中に竣工した施設 ○農協で資金を融資したもののみ。

(三) 経済連においては、『肉畜団地造成助成措置要領』を設定し、肉畜団地の地域指定を行い、指導体制の確立を図り、地

三、肉畜団地造成農協に対する人件費畜舍施設に対する経費の一部助成

経済連においては、『肉畜団地造成助成措置要領』を設定し、肉畜団地の地域指定を行い、指導体制の確立を図り、地

域毎に経営目標を定め計画的事業推進をはかることにしてお

る。これらの肉畜団地の地域指定に対し、農協畜産専任職員の設置の人員費及び肉畜經營の規模拡大による畜舍施設に対し、

農協畜産専任職員の設置の人員費及び肉畜經營の規模拡大による畜舍施設に対し、

農協畜産専任職員の設置の人員費及び肉畜經營の規模

和牛試験場

和牛の産肉能力について

(第一回全国和牛産肉能力共進会の成績から見た)

嘉寿頼榮

和牛の産肉能力についてのこの集録は、共進会を参考しての私見を加えて、岡山県産牛の反省なり、今後の改良指針になれば幸いと思い取りまとめてみました。

1. 種牛の審査結果について

(2) 審査の方針と基準

本共進会は約一〇カ月に亘って行われ、その間三回の審査が行われました。すなわち昭和四十年十二月に始まり、四十一六年六七月に第一回、九月上旬に第二回の審査を行い、第三回目の最終審査は四十一年十月十四日から十七日に亘り岡山会場で行われたのであります。その間の若牛区の審査途中における頭数の推移は表一のとおりであります。

(1) 開始時から岡山会場までの推移

記牛でもよいのですが、月令は生後満六カ月以上でなければならないとされています。この区の審査基準は組の出品各牛の審査得点、出品牛三頭に共通な優点、娘牛二頭に共通な優点で、しかも母牛では優と運動との関連についての考察であります。古来和牛ことに種雄牛は、育成の途中かなり運動を課して体の緊実性を得ることを最上としていた感がありました。そのため二つ目は、牛の発育と育成方法とに運動との関連についての考察であります。古来和牛ことに種雄牛は、育成の途中かなり運動を課して体の緊実性を得ることを最上としていた感がありました。

和牛では肉用牛としてのイメージに最も近いものとして注目されました。いかに登録が家畜の改良に大切であるかがわかりと願います。

その二つ目は、牛の発育と育成方法とに運動との関連についての考察であります。古来和牛ことに種雄牛は、育成の途中かなり運動を課して体の緊実性を得ることを最上としていた感がありました。そのため二つ目は、牛の発育と育成方法とに運動との関連についての考察であります。古来和牛ことに種雄牛は、育成の途中かなり運動を課して体の緊実性を得ることを最上としていた感がありました。

和牛では肉用牛としてのイメージに最も近いものとして注目されました。いかに登録が家畜の改良に大切であるかがわかりと願います。

その二つ目は、牛の発育と育成方法とに運動との関連についての考察であります。古来和牛ことに種雄牛は、育成の途中かなり運動を課して体の緊実性を得ることを最上としていた感がありました。

記牛でもよいのですが、月令は生後満六カ月以上でなければならないとされています。この区の審査基準は組の出品各牛の審査得点、出品牛三頭に共通な優点、娘牛二頭に共通な優点で、しかも母牛では優と運動との関連についての考察であります。古来和牛ことに種雄牛は、育成の途中かなり運動を課して体の緊実性を得ることを最上としていた感がありました。

雌雄共生後六カ月と二四カ月(略)を設定して、選定上の最下限を体重、体高、胸围、胸深率、臍巾率について決定、これが適用されました。なお体高丈については、下限だけでなく上限についても決定して審査されたものであります。

(3) 若牛区の審査結果について

雌雄共最終審査に残ったものは、体の巾、体の深みにとみ、その体型は肉用的

山県の共進会、また登録審査においてもこの点を重視し、県産牛の改良目標にしていきたいものであります。

入賞牛のなかには三代祖までの一四頭のうち九頭までが育種または高等登録牛であったものもありました。本共進会で入賞牛とそうでないものとについて、祖先の各代に育種または高等登録牛の出現率は明らかに入賞牛において多く、逆に

育成の途中において発育規準の下限にふれ、するペーセントを比較してみると、少なくとも三代祖までにおいてはこの出現率は明らかに入賞牛において多く、逆に

育成の途中において発

岡山県開係牛(岡山会場出場)		
開始時	第1回審査後	第2回審査後
黒毛 雄	74(100%)	47(64%)
和種 雌	175(")	75(43%)
計	249(")	132(53%)
	4	4
	8	8

表1 若牛区の頭数の推移

	開始時	第1回審査後	第2回審査後	岡山県開係牛(岡山会場出場)
黒毛 雄	74(100%)	47(64%)	13(18%)	4
和種 雌	175(")	75(43%)	14(8%)	4
計	249(")	132(53%)	27(11%)	8

表2 和牛種牛の育成中適当と思われる運動量(1日当り)

	ひき運動	つなぎ運動
雌	30分	60分
雄	45	70
平均	38	65

これより、月令の関係で参考出品牛でありました。今後は岡山会場で開催されるもののなかに本県参考出品牛の第十一松田号黒八七八七(現和牛試験場繁殖)が最上のものとしてあげられております。その評を申しますと「この牛は母系が四代祖まで全部育種または高等登録牛であって、現在までのところこのようないい例は他にない」といわれております。この牛はご承知のとおり、岡山会場でも審査説明でさかんに説明のありましたとおり、月令の関係で参考出品牛であります。

(4) 育種登録、高等登録区の審査結果について

本区は育種登録牛または高等登録牛

母牛一頭と、父牛と同じくするその娘牛二頭との三頭が一組となつて出品されたものであります。娘牛は登録牛でも登

2. 若牛区の体型について

に

今回の出品牛の測定数値を審査基準の成績値で表わしてみますと、雄ではいざ

れも発育よく体積豊かなものばかりで、体高の成熟値の九四%、坐骨巾九〇%を除いては全ての部位が成熟値の九六%以上を示した素晴らしいものでした。しかし上を示した素晴らしいものでした。しかしながら後軀巾の発育が前軀の巾や深みよりも発育率の上で少なかつたことは、今後後軀巾に重点を置いて改良を要することを示唆しているわけであります。体重は成熟値の八〇%であったようです。

雌についても体高は成熟値の九六%、体長はかなり長かったのですが(九八%)、尻長、後軀巾、特に坐骨巾については雄牛は大体に体各部の発育がよく、体積豊かで中軀が特に優れ、体の巾においても发育がよく、体長もあり栄養状態のよかったです。月令に比してむしろ体の巾に富み、特に体の深みは十分で、上腿の巾も厚みもあり、資質、乳器にも難がなかったよ

うでした。雌では背腰の巾のあるものは中軀が特に優れ、体の巾においても发育基準に達しないものはなかつたよう

特に体の深みは十分で、上腿の巾も厚みがあり、資質、乳器にも難がなかったよ

うでした。しかし、出品牛のうちには発育基準に達しないものはなかつたよう

特に体の深みは十分で、上腿の巾も厚みがあり、資質、乳器にも難がなかったよ

うでした。しかし、出品牛のうちには発育基準に達しないものはなかつたよう

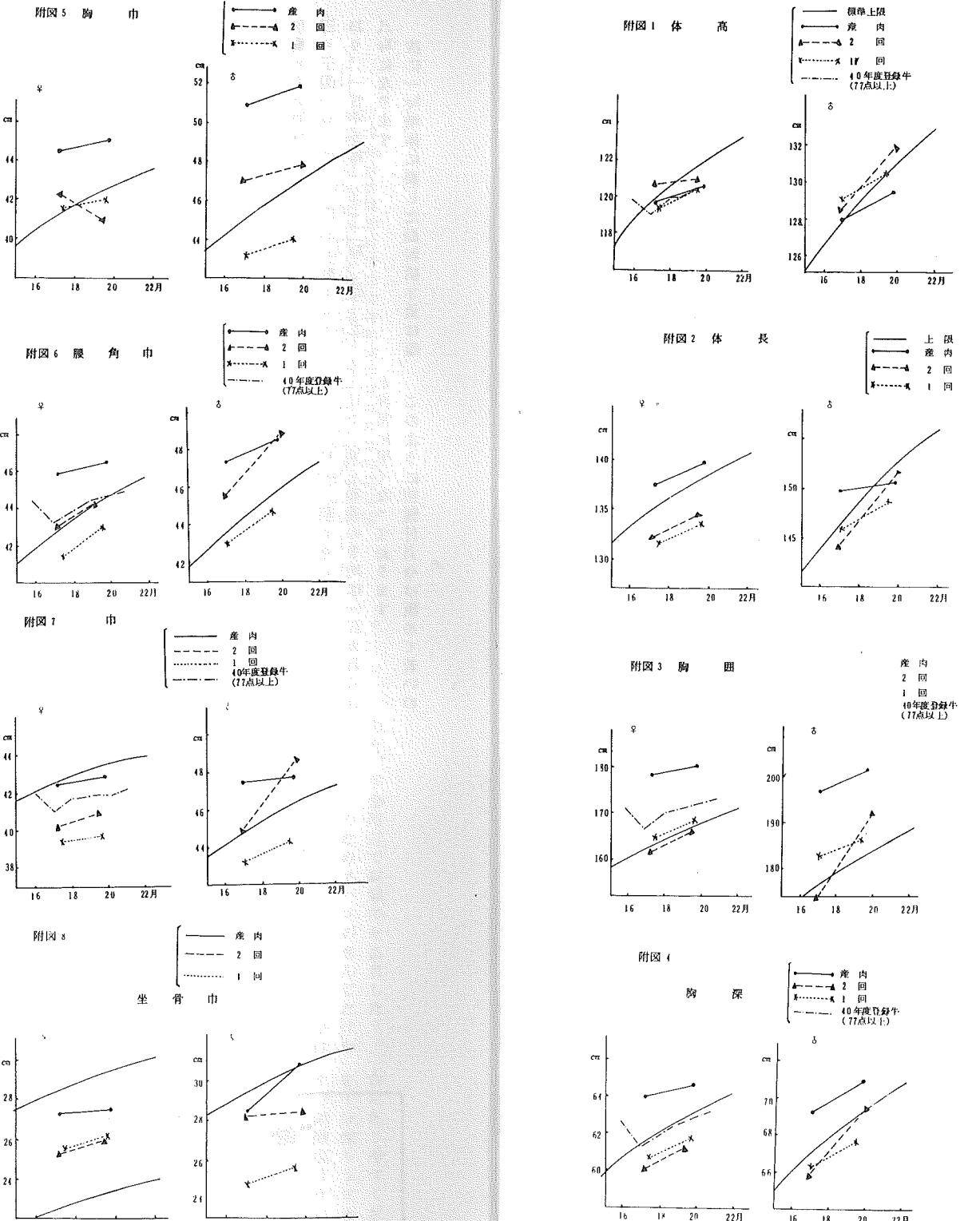
特に体の深みは十分で、上腿の巾も厚みがあり、資質、乳器にも難がなかったよ

うでした。しかし、出品牛のうちには発育基準に達しないものはなかつたよう

3. 若牛区と第一回ならびに第二回全日共

進会出品牛との体型発育の比較

今共進会の岡山会場出場牛中の若牛区黒毛和種の測定値を同月令の第一回および第二回全国和牛共進会出品牛の発育と比較してみると、今回の出場牛は体の巾、体深、体の伸びなど産肉能力と特に関係のある部位において、第一回、第二回の数値に比べ格段の向上を示しており、和牛の改良が肉を主としたものに進みつあることが認められます。



これを発育曲線式にあてはめてみました。その結果、完熟したときの比率を黒毛和種審査標準のそれと比較してみると、いずれの部位においても本成績のほうが大きく、巾と深みがまし、体積が豊かになつたことがわかります。

なお、特に体重の発育において、従来は雄では生後一四ヶ月まで直線的発育をなし、その後は曲線的発育をしていくが、雌では生時から曲線式の適用をうけると発育をしています。即ち本成績では雌の成績では雄で生後一六ヶ月まで直線的発育をしていて、生後一二ヶ月も、増体量がどうであるかを調べてみました。

5. 種牛の増体量および飼料給与について

(1) 一日当たりの増体量について

若牛区雄の出品は、立会時平均約一二

kgで体重三六三・三kgでありました。

第一期審査は立会時から約一〇〇日を経た七月初旬でしたが、その際の月令は約一五・六ヶ月で体重四七五・六kgになりました。その内五頭は一日当たり増量は一・〇kg以上増量していました。この間の一日当たり増量は一・〇kg最大は実に一・四三kgであります。

この増量は試験場で実施している直接検定に当る月令で、各試験場共大体一kgであるので実際に良好な増量といえます。

九・二ヶ月、平均体重は五六六・七kgで、一日当たり増量は〇・九五三kgに達していました。

内五頭は一日当たり一・〇kgまでの酷暑の候で増量が少なかったとの

時期と重なつて、この間の一日当たり増量は一・〇kg最大は実に一・四三kgであります。

この増量は試験場で実施している直接検定に当る月令で、各試験場共大体一kgであるので実際に良好な増量といえます。

され、雄では生後一二ヶ月まで直線的発育をしていて、生後一二ヶ月も、増体量がどうであるかを調べてみました。そこで、雄では生後一二ヶ月まで直線的発育をなし、その後は曲線的発育をしていくが、雌では生時から曲線式の適用をうけると発育をしています。即ち本成績では雌の成績では雄で生後一六ヶ月まで直線的発育をしていて、生後一二ヶ月も、増体量がどうであるかを調べてみました。

たわけでした。このことはむしろ当然のことです。発育の良好なものほどこの直線の期間が長いように考察されるようですが、

最近、産肉能力直接検定を行って増量の多いものを種雄牛として供用すれば

その高い増体量がよく子牛に伝えられ

るということが知られています。そこ

で今回の若牛区の雄ならびに雌について

検定に当る月令で、各試験場共大体一kg

であるので実際に良好な増量といえます。

因みに岡山県出品の第十九横氏号

が大きくなつておらず、反対に体高、腰角巾ではそれほど大きくなつてないことがわかりました。

若牛区の出品は体高および腰角巾以外、

上非常に早熟性をもっていたということ

ができるわけです。

それは雌雄共に体高、十字部高、尻長、おおよび管脚の平均値の間には殆んど差が認められないのですが、胸围、胸深、胸巾、腰角巾、腰巾、坐角巾などの体の巾や体の深みを代表する数値は極めて大きくなつており、かつ好ましい変化を認めることができました。また体の伸びについても、雌ではかなり明瞭な牛軀の伸びが認められております。今一つはこれら各共進会間の差において、第一回（昭和二十八年）と第二回（昭和三十三年）の差に比べ、第二回と今回の間の差のほう

に実現されつつあることを如実に知ること

ができます。

それがわざりました。

かなり大きくなつておらず、反対に体高、腰角巾ではそれほど大きくなつてないことがわかりました。

若牛区の出品は体高および腰角巾以外、

体型が大型であったわけで、特に体積に

ア、成熟値の比較においてはいずれの部位も本成績のほうが大であったのですが、ことになるのですが、胸围と体重では

ア、成長の上限が本成線の下限のあたりであります。

このことは今回の材料牛が共進会出品牛であることも原因して

いたでしょが、体積が急速に向上了した改善成果の現われであります。

従来の曲線の上限が本成線の下限のあたりであります。

毒性が強いといわれており、体重の二・三・六%程度を毎日与えますと、二・三ヶ月後に発病し一週間以内に死んでしまいます。この場合突然に病状が現われ、初め粘膜に僅かな出血があり、ついで二日から三日間くらい鼻血を出して急に食欲が無くなり、普通異常が現われてから一週間くらいで死んでしまいます。

ワラビの毒物の本態はよくわかりませんが、骨髓の障害をおこさせ、出血や血液の凝固不全をおこさせるといわれています。

症状は体温が四〇°Cから四二°Cに上昇し全身の出血、食慾減退、元気がなくなり起立不能になりますが、特別な治療法はなく一旦発病しますと回復は困難ですから、ワラビを与えないように注意すべきです。

(7) 黒 穗 病 菌

寄生します。普通家畜は食べませんが、空腹な時に食べて中毒を起すことがあるといわれ、よだれ、せき、瞳孔の散大、反芻の中止、下痢をして重症のものは一五一八月くらいで死んでしまいます。トウモロコシ黒穂病は妊娠牛に流産をおこせることがあります。

治療に特效薬は無く一般解毒強心の処置を施します。



制限給水による飼料効率の改善

Poultry Tribune 1966, 6月号から

不断給水すれば、鶏は水を飲みすぎその結果、鶏舎は湿り、軟木便が多発し、飼料効率が低下し、鶏卵の品質も低下する。

しかし、水は産卵には重要な要素であり、適量の水を与えない場合は最も大目に達することはない。調査研究にたずさわる人々や、老練な養鶏業者は必要とするだけの水の量、つまり多過ぎも少な過ぎもしない量で制限給水せよと云っている。

産卵鶏の水の消費に影響をおぼすものにはいろいろある。すなわち、飼料の粒子、粗蛋白質の量および飼料中の含塩

量は水の消費量と糞の含水量に影響がある。また、産卵鶏の品種により水の消費量は異ってくる。

その他の要素として、鶏の要

求するだけの水を与えてよいが時間給水することであると説明している。

MILLER

は自動的に運転する給水装置を保有し、

一日二時間ごとに二〇分間水が出ており、一時間四〇分止まり、それから再び二〇

分間水が出るようになっている。水が止つ

ている間、鶏は給水器に落ちていて飼料をつき取り、給水器を清めるので菌類

や粘着物の出来る可能性がない。そこで

治療法にはタンニン酸液や蒼鉛剤の内服その他強心解毒の処置を行います。

腐敗サツマイモの中毒は十月頃から翌春頃に多く発生しますが、黒斑病、根腐病、青カビ菌などのサツマイモでかんでは煮沸しても毒はなくならず、この部分を澱粉粕にしても中毒がります。

症状は呼吸が早く困難となり、ばんやりとして食欲が減り、よだれを流し、二

三日目には鼻のつまる音が高くなり、

四日目頃には起立不能になり呼吸数が非

常に多く、体温も四二°Cくらいになり一週間前後で死んでしまうが、二週間以上たてば回復してきます。早く治療をすることが大切で、二カ月以上経って毒物が全身を循環したものは治り難いので、先ず過マンガン酸カリ液の内服、次亜硫酸の内服や注射、その他下剤を与え解毒、強心の処置を施します。

予防が大切で腐ったところを切り取り、あとを細く切ってざるに入れ二~三回水洗いして少しずつようすを見ながら与えます。一般に春から夏にかけて多く発生します。

治療に特効薬は無く一般解毒強心の処置を施します。

新鮮な麦芽根は良好な飼料ですが、貯蔵や輸送中の管理がよくないために微生物が寄生することにより中毒をおこすことがあります。

腐敗サツマイモの中毒は十月頃から翌春頃に多く発生しますが、黒斑病、根腐病、青カビ菌などのサツマイモでかんでは煮沸しても毒はなくならず、この部分を澱粉粕にしても中毒がります。

症状は呼吸が早く困難となり、ばんやりとして食欲が減り、よだれを流し、二

三日目には鼻のつまる音が高くなり、

四日目頃には起立不能になり呼吸数が非

常に多く、体温も四二°Cくらいになり一

週間前後で死んでしまうが、二週間以上たてば回復してきます。早く治療をすることが大切で、二カ月以上経って毒物が全身を循環したものは治り難いので、先ず過マンガ

ン酸カリ液の内服、次亜硫酸の内服や注射、その他下剤を与え解毒、強心の処置を施します。

予防が大切で腐ったところを切り取り、あとを細く切ってざるに入れ二~三回水洗いして少しずつようすを見ながら与えます。一般に春から夏にかけて多く発生します。

治療に特効薬は無く一般解毒強心の処置を施します。

新鮮な麦芽根は良好な飼料ですが、貯蔵や輸送中の管理がよくないために微生物が寄生することにより中毒をおこすことがあります。

腐敗サツマイモの中毒は十月頃から翌春頃に多く発生しますが、黒斑病、根腐病、青カビ菌などのサツマイモでかんでは煮沸しても毒はなくならず、この部分を澱粉粕にしても中毒がります。

症状は呼吸が早く困難となり、ばんやりとして食欲が減り、よだれを流し、二

三日目には鼻のつまる音が高くなり、

四日目頃には起立不能になり呼吸数が非

常に多く、体温も四二°Cくらいになり一

週間前後で死んでしまうが、二週間以上たてば回復してきます。早く治療をすることが大切で、二カ月以上経って毒物が全身を循環したものは治り難いので、先ず過マンガ

ン酸カリ液の内服、次亜硫酸の内服や注射、その他下剤を与え解毒、強心の処置を施します。

予防が大切で腐ったところを切り取り、あとを細く切ってざるに入れ二~三回水洗いして少しずつようすを見ながら与えます。一般に春から夏にかけて多く発生します。

治療に特効薬は無く一般解毒強心の処置を施します。

新鮮な麦芽根は良好な飼料ですが、貯蔵や輸送中の管理がよくないために微生物が寄生することにより中毒をおこすことがあります。

腐敗サツマイモの中毒は十月頃から翌春頃に多く発生しますが、黒斑病、根腐病、青カビ菌などのサツマイモでかんでは煮沸しても毒はなくならず、この部分を澱粉粕にしても中毒がります。

症状は呼吸が早く困難となり、ばんやりとして食欲が減り、よだれを流し、二

三日目には鼻のつまる音が高くなり、

四日目頃には起立不能になり呼吸数が非

常に多く、体温も四二°Cくらいになり一

週間前後で死んでしまうが、二週間以上たてば回復してきます。早く治療をすることが大切で、二カ月以上経って毒物が全身を循環したものは治り難いので、先ず過マンガ

ン酸カリ液の内服、次亜硫酸の内服や注射、その他下剤を与え解毒、強心の処置を施します。

予防が大切で腐ったところを切り取り、あとを細く切ってざるに入れ二~三回水洗いして少しずつようすを見ながら与えます。一般に春から夏にかけて多く発生します。

治療に特効薬は無く一般解毒強心の処置を施します。

新鮮な麦芽根は良好な飼料ですが、貯蔵や輸送中の管理がよくないために微生物が寄生することにより中毒をおこすことがあります。

腐敗サツマイモの中毒は十月頃から翌春頃に多く発生しますが、黒斑病、根腐病、青カビ菌などのサツマイモでかんでは煮沸しても毒はなくならず、この部分を澱粉粕にしても中毒がります。

症状は呼吸が早く困難となり、ばんやりとして食欲が減り、よだれを流し、二

三日目には鼻のつまる音が高くなり、

四日目頃には起立不能になり呼吸数が非

常に多く、体温も四二°Cくらいになり一

週間前後で死んでしまうが、二週間以上たてば回復してきます。早く治療をすることが大切で、二カ月以上経って毒物が全身を循環したものは治り難いので、先ず過マンガ

ン酸カリ液の内服、次亜硫酸の内服や注射、その他下剤を与え解毒、強心の処置を施します。

予防が大切で腐ったところを切り取り、あとを細く切ってざるに入れ二~三回水洗いして少しずつようすを見ながら与えます。一般に春から夏にかけて多く発生します。

治療に特効薬は無く一般解毒強心の処置を施します。

新鮮な麦芽根は良好な飼料ですが、貯蔵や輸送中の管理がよくないために微生物が寄生することにより中毒をおこすことがあります。

腐敗サツマイモの中毒は十月頃から翌春頃に多く発生しますが、黒斑病、根腐病、青カビ菌などのサツマイモでかんでは煮沸しても毒はなくならず、この部分を澱粉粕にしても中毒がります。

症状は呼吸が早く困難となり、ばんやりとして食欲が減り、よだれを流し、二

三日目には鼻のつまる音が高くなり、

四日目頃には起立不能になり呼吸数が非

常に多く、体温も四二°Cくらいになり一

週間前後で死んでしまうが、二週間以上たてば回復してきます。早く治療をすることが大切で、二カ月以上経って毒物が全身を循環したものは治り難いので、先ず過マンガ

ン酸カリ液の内服、次亜硫酸の内服や注射、その他下剤を与え解毒、強心の処置を施します。

予防が大切で腐ったところを切り取り、あとを細く切ってざるに入れ二~三回水洗いして少しずつようすを見ながら与えます。一般に春から夏にかけて多く発生します。

治療に特効薬は無く一般解毒強心の処置を施します。

新鮮な麦芽根は良好な飼料ですが、貯蔵や輸送中の管理がよくないために微生物が寄生することにより中毒をおこすことがあります。

腐敗サツマイモの中毒は十月頃から翌春頃に多く発生しますが、黒斑病、根腐病、青カビ菌などのサツマイモでかんでは煮沸しても毒はなくならず、この部分を澱粉粕にしても中毒がります。

症状は呼吸が早く困難となり、ばんやりとして食欲が減り、よだれを流し、二

三日目には鼻のつまる音が高くなり、

四日目頃には起立不能になり呼吸数が非

常に多く、体温も四二°Cくらいになり一

週間前後で死んでしまうが、二週間以上たてば回復してきます。早く治療をすることが大切で、二カ月以上経って毒物が全身を循環したものは治り難いので、先ず過マンガ

ン酸カリ液の内服、次亜硫酸の内服や注射、その他下剤を与え解毒、強心の処置を施します。

予防が大切で腐ったところを切り取り、あとを細く切ってざるに入れ二~三回水洗いして少しずつようすを見ながら与えます。一般に春から夏にかけて多く発生します。

治療に特効薬は無く一般解毒強心の処置を施します。

新鮮な麦芽根は良好な飼料ですが、貯蔵や輸送中の管理がよくないために微生物が寄生することにより中毒をおこすことがあります。

腐敗サツマイモの中毒は十月頃から翌春頃に多く発生しますが、黒斑病、根腐病、青カビ菌などのサツマイモでかんでは煮沸しても毒はなくならず、この部分を澱粉粕にしても中毒がります。

症状は呼吸が早く困難となり、ばんやりとして食欲が減り、よだれを流し、二

三日目には鼻のつまる音が高くなり、

四日目頃には起立不能になり呼吸数が非

常に多く、体温も四二°Cくらいになり一

週間前後で死んでしまうが、二週間以上たてば回復してきます。早く治療をすることが大切で、二カ月以上経って毒物が全身を循環したものは治り難いので、先ず過マンガ

ン酸カリ液の内服、次亜硫酸の内服や注射、その他下剤を与え解毒、強心の処置を施します。

予防が大切で腐ったところを切り取り、あとを細く切ってざるに入れ二~三回水洗いして少しずつようすを見ながら与えます。一般に春から夏にかけて多く発生します。

治療に特効薬は無く一般解毒強心の処置を施します。

新鮮な麦芽根は良好な飼料ですが、貯蔵や輸送中の管理がよくないために微生物が寄生することにより中毒をおこすことがあります。

腐敗サツマイモの中毒は十月頃から翌春頃に多く発生しますが、黒斑病、根腐病、青カビ菌などのサツマイモでかんでは煮沸しても毒はなくならず、この部分を澱粉粕にしても中毒がります。

症状は呼吸が早く困難となり、ばんやりとして食欲が減り、よだれを流し、二

三日目には鼻のつまる音が高くなり、

四日目頃には起立不能になり呼吸数が非

常に多く、体温も四二°Cくらいになり一

週間前後で死んでしまうが、二週間以上たてば回復してきます。早く治療をすることが大切で、二カ月以上経って毒物が全身を循環したものは治り難いので、先ず過マンガ

ン酸カリ液の内服、次亜硫酸の内服や注射、その他下剤を与え解毒、強心の処置を施します。

予防が大切で腐ったところを切り取り、あとを細く切ってざるに入れ二~三回水洗いして少しずつようすを見ながら与えます。一般に春から夏にかけて多く発生します。

治療に特効薬は無く一般解毒強心の処置を施します。

新鮮な麦芽根は良好な飼料ですが、貯蔵や輸送中の管理がよくないために微生物が寄生することにより中毒をおこすことがあります。

腐敗サツマイモの中毒は十月頃から翌春頃に多く発生しますが、黒斑病、根腐病、青カビ菌などのサツマイモでかんでは煮沸しても毒はなくならず、この部分を澱粉粕にしても中毒がります。

症状は呼吸が早く困難となり、ばんやりとして食欲が減り、よだれを流し、二

三日目には鼻のつまる音が高くなり、

四日目頃には起立不能になり呼吸数が非

常に多く、体温も四二°Cくらいになり一

週間前後で死んでしまうが、二週間以上たてば回復してきます。早く治療をすることが大切で、二カ月以上経って毒物が全身を循環したものは治り難いので、先ず過マンガ

ン酸カリ液の内服、次亜硫酸の内服や注射、その他下剤を与え解毒、強心の処置を施します。

予防が大切で腐ったところを切り取り、あとを細く切ってざるに入れ二~三回水洗いして少しずつようすを見ながら与えます。一般に春から夏にかけて多く発生します。

治療に特効薬は無く一般解毒強心の処置を施します。

新鮮な麦芽根は良好な飼料ですが、貯蔵や輸送中の管理がよくないために微生物が寄生することにより中毒をおこすことがあります。

腐敗サツマイモの中毒は十月頃から翌春頃に多く発生しますが、黒斑病、根腐病、青カビ菌などのサツマイモでかんでは煮沸しても毒はなくならず、この部分を澱粉粕にしても中毒がります。

症状は呼吸が早く困難となり、ばんやりとして食欲が減り、よだれを流し、二

三日目には鼻のつまる音が高くなり、

四日目頃には起立不能になり呼吸数が非

常に多く、体温も四二°Cくらいになり一

週間前後で死んでしまうが、二週間以上たてば回復してきます。早く治療をすることが大切で、二カ月以上経って毒物が全身を循環したものは治り難いので、先ず過マンガ

ン酸カリ液の内服、次亜硫酸の内服や注射、その他下剤を与え解毒、強心の処置を施します。

予防が大切で腐ったところを切り取り、あとを細く切ってざるに入れ二~三回水洗いして少しずつようすを見ながら与えます。一般に春から夏にかけて多く発生します。

治療に特効薬は無く一般解毒強心の処置を施します。

新鮮な麦芽根は良好な飼料ですが、貯蔵や輸送中の管理がよくないために微生物が寄生することにより中毒をおこすことがあります。

腐敗サツマイモの中毒は十月頃から翌春頃に多く発生しますが、黒斑病、根腐病、青カビ菌などのサツマイモでかんでは煮沸しても毒はなくならず、この部分を澱粉粕にしても中毒がります。

症状は呼吸が早く困難となり、ばんやりとして食欲が減り、よだれを流し、二

三日目には鼻のつまる音が高くなり、

四日目頃には起立不能になり呼吸数が非

常に多く、体温も四二°Cくらいになり一

週間前後で死んでしまうが、二週間以上たてば回復してきます。早く治療をすることが大切で、二カ月以上経って毒物が全身を循環したものは治り難いので、先ず過マンガ

MILLETは臆病な鶏が十分な水を飲まない心配はない。すなわち、鶏はたぶん三分~四分だけしか水を飲まないので、

水の出ている二〇分間にほどの鶏も水を飲む時間が十分あるといっている。

制限給水装置は自動的で、安全無比のものであるべきであり、手動で給水の制限をしたり、計画で水を出したり止めたことはたよりにならない。人間は忘れやすく、そうなるとこの考案全体が失敗する。

制限給水装置を設置する費用は安い。ソレノイドバルブとタイムクロックは必須のものである。すなわち、水が出ない場合ある種の警報装置が養鶏家に警報を発することが望ましい。

ソレノイドの装置の設備費は約一〇〇ドルであり、その内電気警笛が最も高価な品目であった。

(抄訳 技師・谷本昭直)

編集室から

感がする。我が国内需要の一翼を荷負つてほしいものである。

◎本会畜産コンサルタントともいよいよ本診断に入ったが、この事業もその効果を認めて貰った地域では、引続いて行

うわれているが、本会のこの事業を知らない地域も多いようである。我々のPRの不足かも知れないが、せっかく専門家に

によるコンサルテーションが行われ、経営に大きなプラスになっているのであるか

ロイラーのヒナには使つてもよいことにしきし使用法を誤ると問題も起り易い

◎ニューカッスル生ワクチン使用の問題も一応結論が出て、採卵用鶏のヒナとブロイラーのヒナには使つてもよいことに

なって九月から実施することになった。ロイラーのヒナには使つてもよいことにしたので、末端への衛生思想の普及に力を

入れたが、各家畜保健衛生所や地域衛生協力により巡回指導も行

た。今年は特に伝染病発生の年でもあります。それで、末端への衛生思想の普及に力を

入れたが、各家畜保健衛生所や地域衛生協力を頂いた関係の皆様方に厚く御礼を

申し上げます。

◎暑さのため牧草の夏枯れが心配されている。牧野の管理も大変であるが、秋草

にひびいてくると、何のための豚肉消費

ければならなくなつた。養豚関係者はホット一息したところであるが、小売価格

宣伝であつたかと文句が出そうである。

牛馬と全じようにならぬことを願うのみである。

（本誌の予約申込要領）

誌代一部五十円（送料共）
年間予約六百円（送料共）
但し一部購入の場合は増頁号の誌代をその都度の価格とし、年間予約者は増頁特集号の分も一部五十円のサービス価格とす。

集団申込の特典

十部以上を一括で年間予約する方は一部誌代を四十五円にします。
百部以上を一括で年間予約する方は一部誌代を四十円に割引きます。但しこの場合一括購読ですから個人別発送は致しません。

申込方法

同封の振替用紙に代金を添え住所氏名明記の上申込んで下さい。
集団申込は代表者の名で何人分かを明記、誌代合計金額を払込んで下さい。但し申込みは前金を建前としております。

申込先
岡山市桑田町一丁目二番地
社団法人岡山県畜産会指導課
(電話) 岡山 ② 8575番
(口座番号) 岡山八五七五番

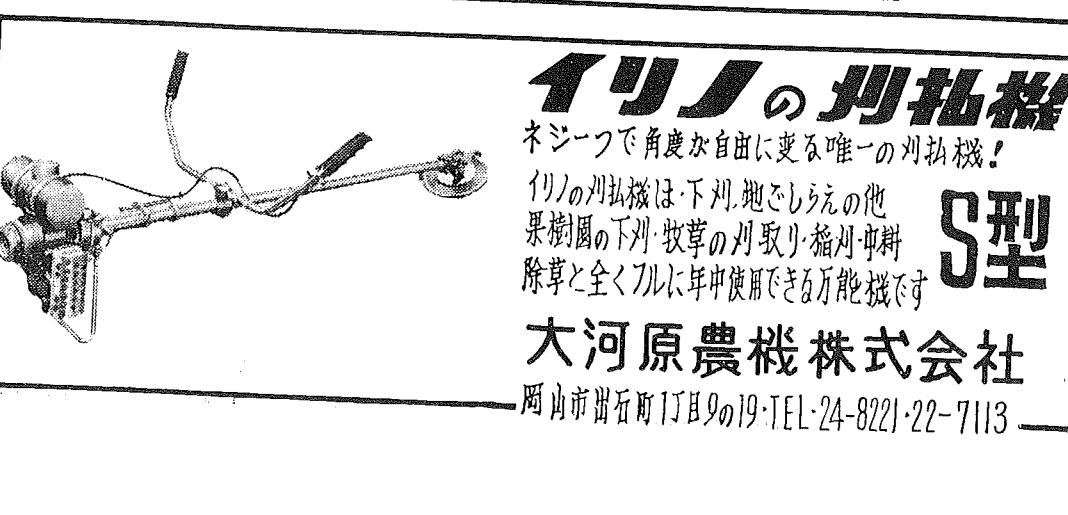
岡山畜産便りをお読み下さい

イリノの刈払機
ネジーフで角度を自由に変える唯一の刈払機!
イリノの刈払機は下刈、地さし、えんの他
果樹園の下刈、牧草の刈取り、植付け
除草と全くフルに年中使用できる万能機です

S型

大河原農機株式会社

岡山市出石町1丁目9 TEL. 24-8221-22-7113



岡山畜産便り（九月号）

第十八卷 第九号
(通巻第百八十二号)

昭和四十二年九月一日 発行

編集人 蔵知毅士

発行人 惣津律

印刷所 岡山市桑田町一の二

岡山県畜産会

電話 岡山 ② 8575番

振替 岡山八五七五番

岡山市内山下七七

ふじや高速印刷

一部百円(送料共)

電話代表 ② 4951番

特価

印刷所

発行所

編集人

発行人

印刷所

</div